

松戸市人口ビジョン

(案)

H27. 10. 6

目 次

1章 人口動向の分析	1
1. 時系列の状況分析.....	2
(1) 人口全体の動向.....	2
(2) 年齢別動向.....	3
(3) 男女別の動向.....	14
2. 人口動態の分析.....	15
(1) 自然動態・社会動態別の動向.....	15
(2) 自然動態の動向.....	16
(3) 社会動態の動向.....	21
(4) 年齢別移動動向の分析.....	24
(5) 転入元・転出先の分析.....	26
3. 就業・雇用に関する分析.....	33
(1) 産業別就業人口.....	33
(2) 年齢別就業人口.....	36
(3) 通勤・通学者の動向.....	40
(4) 昼夜間人口比率の推移.....	42
4. 今後の人口変化が及ぼす影響.....	43
2章 人口の将来展望	47
1. 将来人口の推計.....	48
(1) 各機関による既存推計結果.....	48
(2) 市のシミュレーションによる推計結果.....	50
2. 目指すべき将来人口の展望.....	58
(1) 現状の整理と将来への可能性.....	58
(2) 将来人口の展望.....	62

1 章 人口動向の分析

1. 時系列の状況分析

(1) 人口全体の動向

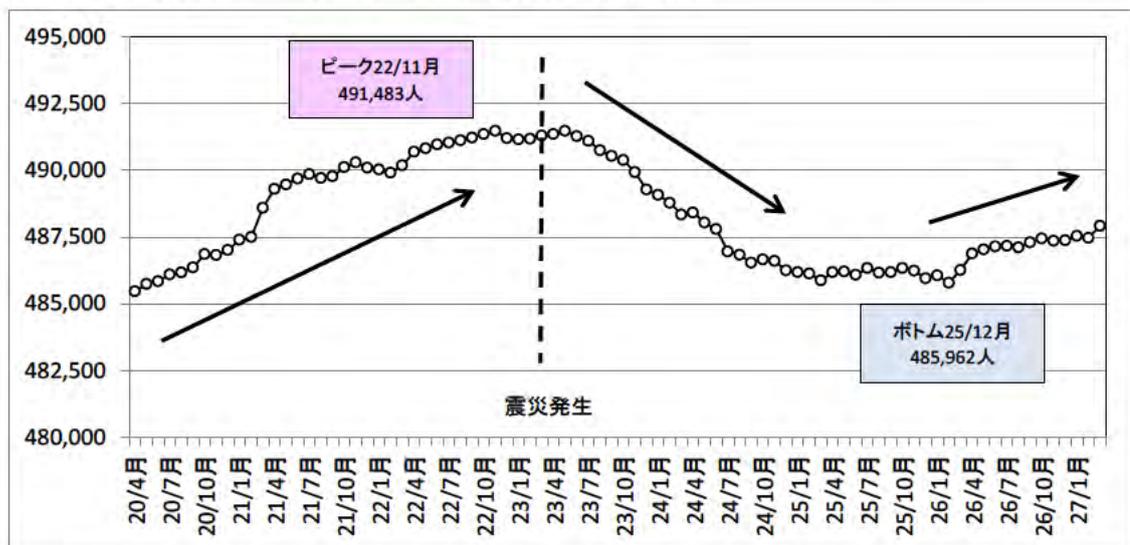
松戸市の人口を国勢調査から長期的にみると、最近まで増加傾向を続けているものの、近年では増加率は鈍化傾向にある。平成 17 年から 22 年までの 5 年間では 11,878 人の増加で、増加率は 2.5%となっている。

平成 20 年 4 月以降の月ごとの動きをみると、22 年までは増加を続けていたが、23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響もあり、同年後半以降ははっきりとした減少傾向に転じた。その後は横ばい傾向が続き、26 年になると緩やかな回復傾向となっている。ただし、ピークである 22 年 11 月の水準にはまだ戻ってはいない。

◇人口の長期的推移 資料：国勢調査（総務省）

	S40年	S45年	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
総数	160,001	253,591	344,558	400,863	427,473	456,210	461,503	464,841	472,579	484,457
増減数	73,629	93,590	90,967	56,305	26,610	28,737	5,293	3,338	7,738	11,878
増減率	85.2%	58.5%	35.9%	16.3%	6.6%	6.7%	1.2%	0.7%	1.7%	2.5%
年少人口	41,533	69,428	99,702	110,444	101,392	84,659	70,840	65,706	64,723	60,757
生産年齢人口	112,901	175,571	231,852	272,002	302,670	341,031	349,819	342,320	330,524	320,016
老年人口	5,567	8,592	13,004	18,418	23,410	30,519	40,844	56,815	77,333	103,684
年少人口比率	26.0%	27.4%	28.9%	27.6%	23.7%	18.6%	15.3%	14.1%	13.7%	12.5%
生産年齢人口比率	70.6%	69.2%	67.3%	67.9%	70.8%	74.8%	75.8%	73.6%	69.9%	66.1%
老年人口比率	3.5%	3.4%	3.8%	4.6%	5.5%	6.7%	8.9%	12.2%	16.4%	21.4%

◇人口の短期的推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



(2) 年齢別動向

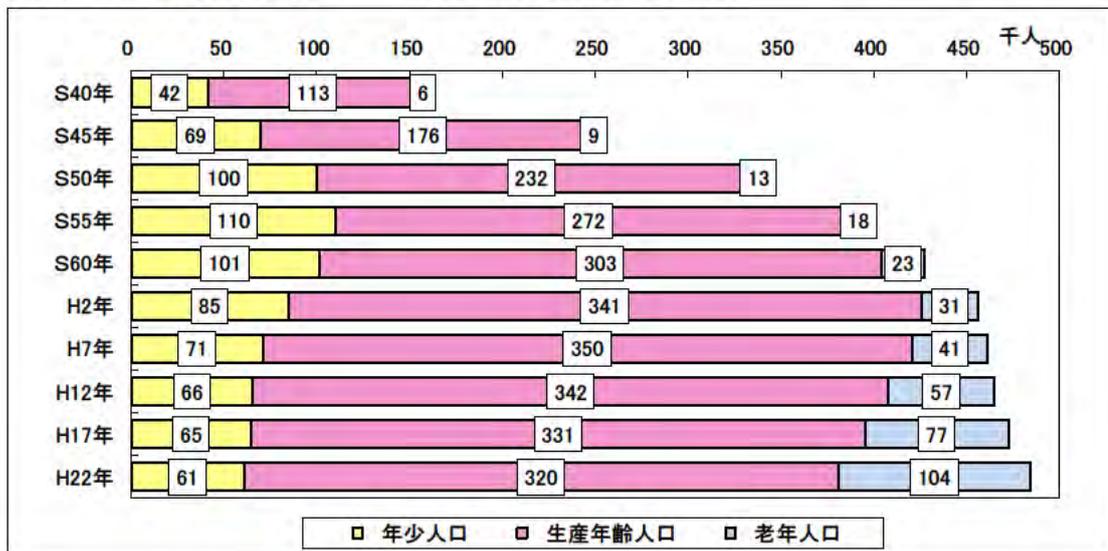
①年齢3区分別

【長期的推移】(国勢調査より)

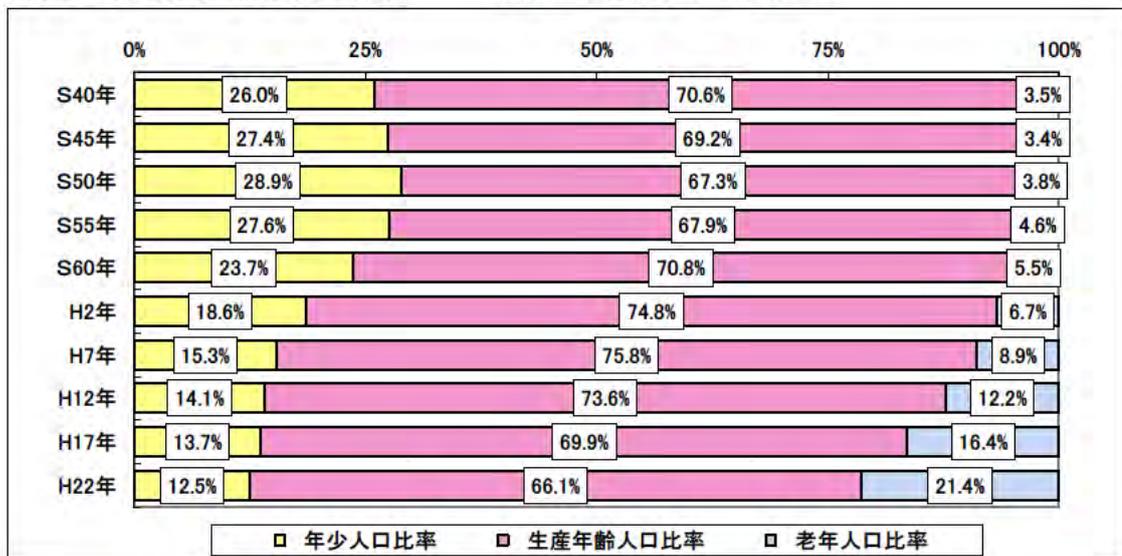
年齢3区分別で見ると、15歳未満の年少人口は昭和55年、15～64歳の生産年齢人口は平成7年を境として減少に転じている一方で、65歳以上の老年人口は増加を続けている。特に年少人口に関しては、直近の平成22年には、ピーク時(110千人)の半数強まで減少している。

その結果として、年少人口と生産年齢人口の比率は低下し、老年人口比率は上昇しており、年齢構成上の「高齢化」が急速に進行している。

◇年齢3区分別人口の推移 資料：国勢調査(総務省)



◇年齢3区分別人口構成比の推移 資料：国勢調査(総務省)



老年人口比率（＝高齢化率）の推移を、県内の近隣自治体（柏市、流山市、市川市）及び千葉県と比較してみる。

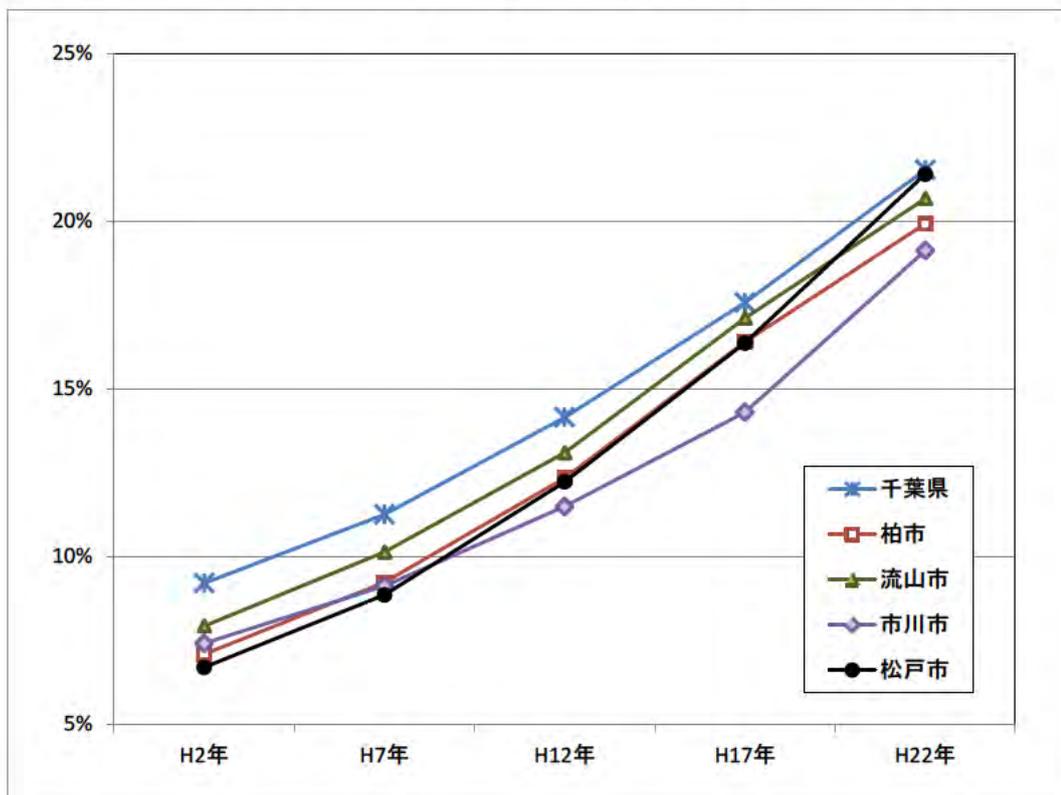
それぞれの高齢化率は、上昇傾向にあるが、その中で、県内では都市部に立地している松戸市を含む4市の高齢化曲線は、千葉県全体より低位で推移している。

松戸市の高齢化率は、平成2年時点では4市の中で最も低い水準であったが、その後の上昇傾向は他市よりやや強く、22年には最も高い水準となっている。

なお、4市の中で市川市は平成17年まで高齢化率は低かったが、22年には他市に近い水準に達しており。この5年間での高齢化の進捗度合いが強かったことがみとれる。

◇高齢化率の県内近隣自治体・千葉県との比較

資料：国勢調査（総務省）



【短期的推移】（住民基本台帳より）

最近数年の動向をみると、年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の増加という傾向に変化はないことがわかる。

23年度と24年度は震災の影響もあり、生産年齢人口が特に減少しているが、25年度以降はその幅は縮小している。

老年人口は、26年3月末以降の1年間で4,541人増加し、27年3月末時点では116,769人となっており、老年人口比率は23.9%に達している。

1人の老年人口を何人の生産年齢人口で支えるかを算出してみると（生産年齢人口／老年人口）、21年には3.6人で1人を支える構造であったが、27年には2.7人で1人を支える構造となっており、わずか6年間で相当な高齢化が進んだことがわかる。

◇平成21年3月以降の人口動向

資料：住民基本台帳（松戸市）

【人口数】

	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
年少人口	65,286	65,070	64,780	63,275	62,139	61,209	60,511
生産年齢人口	331,205	329,413	328,650	323,365	316,439	312,826	310,639
老年人口	92,109	95,699	97,872	101,699	107,298	112,228	116,769
総人口	488,600	490,182	491,302	488,339	485,876	486,263	487,919

【人口構成比】

	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
年少人口	13.4%	13.3%	13.2%	13.0%	12.8%	12.6%	12.4%
生産年齢人口	67.8%	67.2%	66.9%	66.2%	65.1%	64.3%	63.7%
老年人口	18.9%	19.5%	19.9%	20.8%	22.1%	23.1%	23.9%

【人口増減数】

	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
年少人口	—	△ 216	△ 290	△ 1,505	△ 1,136	△ 930	△ 698
生産年齢人口	—	△ 1,792	△ 763	△ 5,285	△ 6,926	△ 3,613	△ 2,187
老年人口	—	3,590	2,173	3,827	5,599	4,930	4,541
総人口	—	1,582	1,120	△ 2,963	△ 2,463	387	1,656

【人口増減率】

	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
年少人口	—	-0.3%	-0.4%	-2.3%	-1.8%	-1.5%	-1.1%
生産年齢人口	—	-0.5%	-0.2%	-1.6%	-2.1%	-1.1%	-0.7%
老年人口	—	3.9%	2.3%	3.9%	5.5%	4.6%	4.0%
総人口	—	0.3%	0.2%	-0.6%	-0.5%	0.1%	0.3%

生産年齢人口 ／老年人口	3.6	3.4	3.4	3.2	2.9	2.8	2.7
-----------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

②年齢5歳階級別

【長期的推移】（国勢調査より）

年齢5歳ごとの長期的な人口動向を、直近の平成17年から22年までの動きを中心にみしてみる。

年少人口では、平成17年から22年にかけて「0～4歳」「5～9歳」が大きく減少している。2つの階級とも5年間の減少率は10%前後となっている。

生産年齢人口では、平成2年から7年には大きく増加していた「25～29歳」「30～34歳」の層が、直近の5年間では大きなマイナスに転じていることが目立つ。逆に30歳台後半から40歳代にかけては、直近では増加となっている

老年人口は、平成17年から22年の5年間で、全ての階級で2割以上増加している。この間の松戸市の人口全体の増加が11,878人であるなかで、「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」の3つの階級の増加幅の合計は20,348人となっている。

◇年齢5歳階級別 人口数の推移 資料：国勢調査（総務省）

年齢	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年
0～4	25,751	23,577	23,437	21,898	19,606
5～9	27,604	22,311	21,234	22,174	20,119
10～14	31,304	24,951	21,035	20,651	21,032
15～19	40,176	31,940	25,608	22,107	21,445
20～24	41,339	42,813	33,966	28,096	24,237
25～29	37,959	43,704	43,872	34,377	29,201
30～34	32,458	37,092	42,095	43,285	34,074
35～39	34,741	29,406	33,767	39,774	42,158
40～44	42,845	32,111	27,712	32,444	38,885
45～49	38,170	41,126	30,695	26,816	32,392
50～54	31,556	36,989	39,544	30,218	27,260
55～59	24,914	30,760	35,811	38,611	30,898
60～64	16,872	23,878	29,251	34,796	39,466
65～69	11,184	15,891	22,558	28,165	35,285
70～74	7,892	10,343	14,721	21,328	27,907
75～79	6,226	6,906	9,326	13,449	20,097
80～84	3,389	4,853	5,569	7,937	11,553
85～89	1,381	2,129	3,370	4,103	5,788
90～94	394	617	1,062	1,877	2,294
95～	53	105	209	473	759
総数	456,210	461,503	464,841	472,579	484,457

◇年齢 5 歳階級別 人口増減数の推移

資料：国勢調査（総務省）

年齢	H2⇒H7年	H7⇒H12年	H12⇒H17年	H17⇒H22年
0～4	△ 2,174	△ 140	△ 1,539	△ 2,292
5～9	△ 5,293	△ 1,078	940	△ 2,055
10～14	△ 6,352	△ 3,916	△ 384	381
15～19	△ 8,236	△ 6,332	△ 3,501	△ 662
20～24	1,474	△ 8,847	△ 5,870	△ 3,859
25～29	5,745	169	△ 9,495	△ 5,176
30～34	4,634	5,002	1,190	△ 9,211
35～39	△ 5,336	4,362	6,007	2,383
40～44	△ 10,734	△ 4,399	4,732	6,441
45～49	2,956	△ 10,431	△ 3,879	5,577
50～54	5,433	2,554	△ 9,326	△ 2,958
55～59	5,845	5,051	2,801	△ 7,713
60～64	7,006	5,372	5,545	4,670
65～69	4,707	6,667	5,608	7,120
70～74	2,451	4,378	6,607	6,579
75～79	680	2,420	4,123	6,649
80～84	1,464	716	2,368	3,616
85～89	748	1,241	733	1,684
90～94	223	445	815	417
95～	52	104	263	286
総数	5,293	3,338	7,738	11,878

◇年齢 5 歳階級別 人口増減率の推移

資料：国勢調査（総務省）

年齢	H2⇒H7年	H7⇒H12年	H12⇒H17年	H17⇒H22年
0～4	-8.4%	-0.6%	-6.6%	-10.5%
5～9	-19.2%	-4.8%	4.4%	-9.3%
10～14	-20.3%	-15.7%	-1.8%	1.8%
15～19	-20.5%	-19.8%	-13.7%	-3.0%
20～24	3.6%	-20.7%	-17.3%	-13.7%
25～29	15.1%	0.4%	-21.6%	-15.1%
30～34	14.3%	13.5%	2.8%	-21.3%
35～39	-15.4%	14.8%	17.8%	6.0%
40～44	-25.1%	-13.7%	17.1%	19.9%
45～49	7.7%	-25.4%	-12.6%	20.8%
50～54	17.2%	6.9%	-23.6%	-9.8%
55～59	23.5%	16.4%	7.8%	-20.0%
60～64	41.5%	22.5%	19.0%	13.4%
65～69	42.1%	42.0%	24.9%	25.3%
70～74	31.1%	42.3%	44.9%	30.8%
75～79	10.9%	35.0%	44.2%	49.4%
80～84	43.2%	14.7%	42.5%	45.6%
85～89	54.2%	58.3%	21.8%	41.0%
90～94	56.4%	72.2%	76.7%	22.2%
95～	97.7%	99.2%	125.7%	60.6%
総数	1.2%	0.7%	1.7%	2.5%

【短期的推移】（住民基本台帳より）

平成 21 年以降の動きをみると、年少人口は各階級とも減少傾向となっている。

生産年齢人口の中では、先にみた 05⇒10 年の動きと同様に「25～29 歳」「30～34 歳」で減少幅が大きい傾向が続いている。また「35～39 歳」の層ではここ 4 年間、毎年 5%以上の減少となっている。「60～64 歳」も最近 3 年続けて 8%前後減少している。

老年人口は、各階級とも、毎年増加を続けている。

◇年齢 5 歳階級別 人口数の推移 資料：住民基本台帳（松戸市）

年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0～4	21,230	21,183	21,226	20,466	19,863	19,565	19,395
5～9	22,029	21,779	21,155	20,664	20,210	19,916	19,609
10～14	22,027	22,108	22,399	22,145	22,066	21,728	21,507
15～19	20,944	21,252	21,518	21,701	21,920	22,421	22,558
20～24	27,501	26,220	25,522	24,870	24,546	24,634	25,368
25～29	34,274	33,654	32,820	31,209	29,473	28,655	28,092
30～34	39,370	37,709	36,389	34,488	32,969	31,928	31,417
35～39	45,021	44,793	43,536	41,244	38,882	36,792	34,956
40～44	38,598	39,828	41,068	42,865	43,226	43,178	42,838
45～49	30,170	31,855	33,494	34,174	35,853	37,614	38,704
50～54	26,800	26,727	27,006	27,684	28,600	29,502	31,264
55～59	33,300	30,682	28,844	27,382	26,307	26,039	25,999
60～64	35,227	36,693	38,453	37,748	34,663	32,063	29,443
65～69	32,693	33,120	31,600	31,253	33,052	33,620	35,139
70～74	25,024	25,738	26,499	27,981	28,850	30,809	31,229
75～79	16,644	17,979	19,659	20,898	22,149	22,700	23,311
80～84	9,839	10,529	11,185	11,997	13,009	14,031	15,193
85～89	5,223	5,471	5,802	6,214	6,677	7,200	7,784
90～94	1,994	2,141	2,380	2,547	2,714	2,988	3,130
95～99	616	644	638	689	719	739	827
100～	76	77	109	120	128	141	156
総人口	488,600	490,182	491,302	488,339	485,876	486,263	487,919

◇年齢5歳階級別 人口増減数の推移

資料：住民基本台帳（松戸市）

年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0～4	—	△ 47	43	△ 760	△ 603	△ 298	△ 170
5～9	—	△ 250	△ 624	△ 491	△ 454	△ 294	△ 307
10～14	—	81	291	△ 254	△ 79	△ 338	△ 221
15～19	—	308	266	183	219	501	137
20～24	—	△ 1,281	△ 698	△ 652	△ 324	88	734
25～29	—	△ 620	△ 834	△ 1,611	△ 1,736	△ 818	△ 563
30～34	—	△ 1,661	△ 1,320	△ 1,901	△ 1,519	△ 1,041	△ 511
35～39	—	△ 228	△ 1,257	△ 2,292	△ 2,362	△ 2,090	△ 1,836
40～44	—	1,230	1,240	1,797	361	△ 48	△ 340
45～49	—	1,685	1,639	680	1,679	1,761	1,090
50～54	—	△ 73	279	678	916	902	1,762
55～59	—	△ 2,618	△ 1,838	△ 1,462	△ 1,075	△ 268	△ 40
60～64	—	1,466	1,760	△ 705	△ 3,085	△ 2,600	△ 2,620
65～69	—	427	△ 1,520	△ 347	1,799	568	1,519
70～74	—	714	761	1,482	869	1,959	420
75～79	—	1,335	1,680	1,239	1,251	551	611
80～84	—	690	656	812	1,012	1,022	1,162
85～89	—	248	331	412	463	523	584
90～94	—	147	239	167	167	274	142
95～99	—	28	△ 6	51	30	20	88
100～	—	1	32	11	8	13	15
総人口	—	1,582	1,120	△ 2,963	△ 2,463	387	1,656

◇年齢5歳階級別 人口増減率の推移

資料：住民基本台帳（松戸市）

年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0～4	—	-0.2%	0.2%	-3.6%	-2.9%	-1.5%	-0.9%
5～9	—	-1.1%	-2.9%	-2.3%	-2.2%	-1.5%	-1.5%
10～14	—	0.4%	1.3%	-1.1%	-0.4%	-1.5%	-1.0%
15～19	—	1.5%	1.3%	0.9%	1.0%	2.3%	0.6%
20～24	—	-4.7%	-2.7%	-2.6%	-1.3%	0.4%	3.0%
25～29	—	-1.8%	-2.5%	-4.9%	-5.6%	-2.8%	-2.0%
30～34	—	-4.2%	-3.5%	-5.2%	-4.4%	-3.2%	-1.6%
35～39	—	-0.5%	-2.8%	-5.3%	-5.7%	-5.4%	-5.0%
40～44	—	3.2%	3.1%	4.4%	0.8%	-0.1%	-0.8%
45～49	—	5.6%	5.1%	2.0%	4.9%	4.9%	2.9%
50～54	—	-0.3%	1.0%	2.5%	3.3%	3.2%	6.0%
55～59	—	-7.9%	-6.0%	-5.1%	-3.9%	-1.0%	-0.2%
60～64	—	4.2%	4.8%	-1.8%	-8.2%	-7.5%	-8.2%
65～69	—	1.3%	-4.6%	-1.1%	5.8%	1.7%	4.5%
70～74	—	2.9%	3.0%	5.6%	3.1%	6.8%	1.4%
75～79	—	8.0%	9.3%	6.3%	6.0%	2.5%	2.7%
80～84	—	7.0%	6.2%	7.3%	8.4%	7.9%	8.3%
85～89	—	4.7%	6.1%	7.1%	7.5%	7.8%	8.1%
90～94	—	7.4%	11.2%	7.0%	6.6%	10.1%	4.8%
95～99	—	4.5%	-0.9%	8.0%	4.4%	2.8%	11.9%
100～	—	1.3%	41.6%	10.1%	6.7%	10.2%	10.6%
総人口	—	0.3%	0.2%	-0.6%	-0.5%	0.1%	0.3%

③年齢 1 歳階級別（0～20 歳）

【長期的推移】（国勢調査より）

年齢 1 歳階級別で、国勢調査による 5 年ごとの 20 歳以下の動向をみてる。

平成 17 年から 22 年にかけて、0 歳から 20 歳までの 21 階級の中で増加したのは 12 歳、13 歳、15 歳の 3 階級のみで、残りの 18 階級は減少となっており、いわゆる「少子化」が進んでいることがみてとれる。

中でも減少数が目立つのは、19 歳（△750 人）、20 歳（△899 人）で、5 年間で 19 歳は 14.3%、20 歳は 17.0%の減少率となっている。それより前の 7 年⇒12 年、12 年⇒17 年から、18 歳も含めて大きな減少幅が続いている。

◇年齢 1 歳階級別 人口数の推移 資料：国勢調査（総務省）

年齢	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
0歳	6,746	5,857	4,948	5,021	4,917	4,227	3,913
1歳	6,964	5,994	5,126	4,917	4,726	4,401	3,897
2歳	7,218	5,866	5,148	4,576	4,599	4,331	3,840
3歳	7,397	6,101	5,178	4,552	4,642	4,380	3,670
4歳	7,699	6,040	5,257	4,474	4,496	4,452	3,694
5歳	7,752	6,264	5,466	4,337	4,497	4,609	3,703
6歳	8,159	6,382	5,478	4,418	4,333	4,389	3,872
7歳	8,392	6,556	5,448	4,444	4,086	4,322	3,918
8歳	8,119	6,813	5,557	4,537	4,148	4,475	3,995
9歳	7,886	7,058	5,554	4,540	4,118	4,270	4,023
10歳	7,705	7,236	5,790	4,864	4,029	4,289	4,171
11歳	7,180	7,681	5,974	4,878	4,007	4,204	4,112
12歳	6,789	8,008	6,242	4,844	4,245	3,953	4,013
13歳	6,865	7,765	6,418	5,136	4,274	4,046	4,112
14歳	5,390	7,692	6,765	5,190	4,429	4,058	3,988
15歳	6,002	7,525	7,061	5,422	4,640	3,914	4,189
16歳	5,414	7,035	7,432	5,662	4,740	4,045	4,005
17歳	4,877	6,802	7,940	6,012	4,769	4,192	3,900
18歳	5,208	7,350	8,522	6,868	5,446	4,619	4,223
19歳	5,523	6,217	9,074	7,926	5,951	5,230	4,480
20歳	5,396	7,125	8,922	7,758	6,194	5,290	4,391

◇年齢1歳階級別 人口増減数の推移

資料：国勢調査（総務省）

年齢	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
0歳	—	△ 889	△ 909	73	△ 104	△ 690	△ 314
1歳	—	△ 970	△ 868	△ 209	△ 191	△ 325	△ 504
2歳	—	△ 1,352	△ 718	△ 572	23	△ 268	△ 491
3歳	—	△ 1,296	△ 923	△ 626	90	△ 262	△ 710
4歳	—	△ 1,659	△ 783	△ 783	22	△ 44	△ 758
5歳	—	△ 1,488	△ 798	△ 1,129	160	112	△ 906
6歳	—	△ 1,777	△ 904	△ 1,060	△ 85	56	△ 517
7歳	—	△ 1,836	△ 1,108	△ 1,004	△ 358	236	△ 404
8歳	—	△ 1,306	△ 1,256	△ 1,020	△ 389	327	△ 480
9歳	—	△ 828	△ 1,504	△ 1,014	△ 422	152	△ 247
10歳	—	△ 469	△ 1,446	△ 926	△ 835	260	△ 118
11歳	—	501	△ 1,707	△ 1,096	△ 871	197	△ 92
12歳	—	1,219	△ 1,766	△ 1,398	△ 599	△ 292	60
13歳	—	900	△ 1,347	△ 1,282	△ 862	△ 228	66
14歳	—	2,302	△ 927	△ 1,575	△ 761	△ 371	△ 70
15歳	—	1,523	△ 464	△ 1,639	△ 782	△ 726	275
16歳	—	1,621	397	△ 1,770	△ 922	△ 695	△ 40
17歳	—	1,925	1,138	△ 1,928	△ 1,243	△ 577	△ 292
18歳	—	2,142	1,172	△ 1,654	△ 1,422	△ 827	△ 396
19歳	—	694	2,857	△ 1,148	△ 1,975	△ 721	△ 750
20歳	—	1,729	1,797	△ 1,164	△ 1,564	△ 904	△ 899

◇年齢1歳階級別 人口増減率の推移

資料：国勢調査（総務省）

年齢	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
0歳	—	-13.2%	-15.5%	1.5%	-2.1%	-14.0%	-7.4%
1歳	—	-13.9%	-14.5%	-4.1%	-3.9%	-6.9%	-11.5%
2歳	—	-18.7%	-12.2%	-11.1%	0.5%	-5.8%	-11.3%
3歳	—	-17.5%	-15.1%	-12.1%	2.0%	-5.6%	-16.2%
4歳	—	-21.5%	-13.0%	-14.9%	0.5%	-1.0%	-17.0%
5歳	—	-19.2%	-12.7%	-20.7%	3.7%	2.5%	-19.7%
6歳	—	-21.8%	-14.2%	-19.4%	-1.9%	1.3%	-11.8%
7歳	—	-21.9%	-16.9%	-18.4%	-8.1%	5.8%	-9.3%
8歳	—	-16.1%	-18.4%	-18.4%	-8.6%	7.9%	-10.7%
9歳	—	-10.5%	-21.3%	-18.3%	-9.3%	3.7%	-5.8%
10歳	—	-6.1%	-20.0%	-16.0%	-17.2%	6.5%	-2.8%
11歳	—	7.0%	-22.2%	-18.3%	-17.9%	4.9%	-2.2%
12歳	—	18.0%	-22.1%	-22.4%	-12.4%	-6.9%	1.5%
13歳	—	13.1%	-17.3%	-20.0%	-16.8%	-5.3%	1.6%
14歳	—	42.7%	-12.1%	-23.3%	-14.7%	-8.4%	-1.7%
15歳	—	25.4%	-6.2%	-23.2%	-14.4%	-15.6%	7.0%
16歳	—	29.9%	5.6%	-23.8%	-16.3%	-14.7%	-1.0%
17歳	—	39.5%	16.7%	-24.3%	-20.7%	-12.1%	-7.0%
18歳	—	41.1%	15.9%	-19.4%	-20.7%	-15.2%	-8.6%
19歳	—	12.6%	46.0%	-12.7%	-24.9%	-12.1%	-14.3%
20歳	—	32.0%	25.2%	-13.0%	-20.2%	-14.6%	-17.0%

【短期的推移】（住民基本台帳より）

平成 21 年以降の動きを 1 歳階級ごとにとみると、はっきりとした傾向は読み取れない。H17⇒22 年では大きく減少していた 18 歳、19 歳、20 歳の階級では、年により増減両方の傾向がみられるものの、プラスの年の方が多くなっている。

◇年齢 1 歳階級別 人口数の推移 資料：住民基本台帳（松戸市）

年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0歳	4,310	4,273	4,170	4,036	3,844	3,845	3,783
1歳	4,280	4,404	4,306	4,107	4,045	3,892	3,906
2歳	4,312	4,211	4,364	4,106	3,996	3,990	3,865
3歳	4,065	4,258	4,181	4,128	3,935	3,944	3,936
4歳	4,263	4,037	4,205	4,089	4,043	3,894	3,905
5歳	4,279	4,225	4,018	4,082	4,025	3,987	3,846
6歳	4,386	4,239	4,216	3,897	4,029	3,951	3,971
7歳	4,357	4,390	4,209	4,176	3,863	4,004	3,943
8歳	4,592	4,342	4,378	4,153	4,159	3,836	4,004
9歳	4,415	4,583	4,334	4,356	4,134	4,138	3,845
10歳	4,443	4,422	4,580	4,314	4,349	4,138	4,138
11歳	4,424	4,445	4,425	4,564	4,297	4,337	4,157
12歳	4,505	4,431	4,468	4,406	4,558	4,299	4,347
13歳	4,302	4,502	4,428	4,454	4,397	4,558	4,309
14歳	4,353	4,308	4,498	4,407	4,465	4,396	4,556
15歳	4,114	4,364	4,330	4,479	4,391	4,464	4,429
16歳	4,154	4,108	4,365	4,320	4,480	4,389	4,459
17歳	4,244	4,154	4,111	4,350	4,318	4,481	4,395
18歳	4,137	4,288	4,240	4,153	4,436	4,427	4,569
19歳	4,295	4,338	4,472	4,399	4,295	4,660	4,706
20歳	4,689	4,414	4,466	4,566	4,578	4,457	4,893

◇年齢1歳階級別 人口増減数の推移

資料：住民基本台帳（松戸市）

年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0歳	—	△ 37	△ 103	△ 134	△ 192	1	△ 62
1歳	—	124	△ 98	△ 199	△ 62	△ 153	14
2歳	—	△ 101	153	△ 258	△ 110	△ 6	△ 125
3歳	—	193	△ 77	△ 53	△ 193	9	△ 8
4歳	—	△ 226	168	△ 116	△ 46	△ 149	11
5歳	—	△ 54	△ 207	64	△ 57	△ 38	△ 141
6歳	—	△ 147	△ 23	△ 319	132	△ 78	20
7歳	—	33	△ 181	△ 33	△ 313	141	△ 61
8歳	—	△ 250	36	△ 225	6	△ 323	168
9歳	—	168	△ 249	22	△ 222	4	△ 293
10歳	—	△ 21	158	△ 266	35	△ 211	0
11歳	—	21	△ 20	139	△ 267	40	△ 180
12歳	—	△ 74	37	△ 62	152	△ 259	48
13歳	—	200	△ 74	26	△ 57	161	△ 249
14歳	—	△ 45	190	△ 91	58	△ 69	160
15歳	—	250	△ 34	149	△ 88	73	△ 35
16歳	—	△ 46	257	△ 45	160	△ 91	70
17歳	—	△ 90	△ 43	239	△ 32	163	△ 86
18歳	—	151	△ 48	△ 87	283	△ 9	142
19歳	—	43	134	△ 73	△ 104	365	46
20歳	—	△ 275	52	100	12	△ 121	436

◇年齢1歳階級別 人口増減率の推移

資料：住民基本台帳（松戸市）

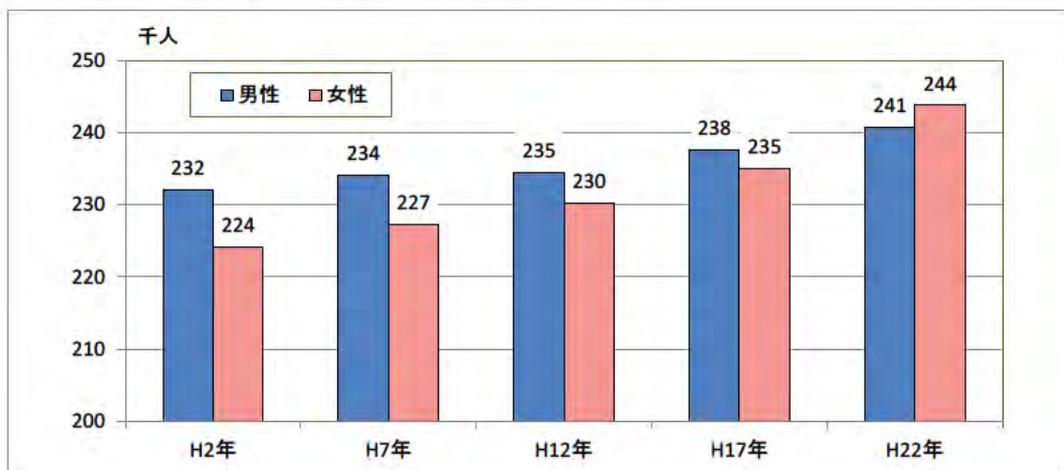
年齢	21/3月	22/3月	23/3月	24/3月	25/3月	26/3月	27/3月
0歳	—	-0.9%	-2.4%	-3.2%	-4.8%	0.0%	-1.6%
1歳	—	2.9%	-2.2%	-4.6%	-1.5%	-3.8%	0.4%
2歳	—	-2.3%	3.6%	-5.9%	-2.7%	-0.2%	-3.1%
3歳	—	4.7%	-1.8%	-1.3%	-4.7%	0.2%	-0.2%
4歳	—	-5.3%	4.2%	-2.8%	-1.1%	-3.7%	0.3%
5歳	—	-1.3%	-4.9%	1.6%	-1.4%	-0.9%	-3.5%
6歳	—	-3.4%	-0.5%	-7.6%	3.4%	-1.9%	0.5%
7歳	—	0.8%	-4.1%	-0.8%	-7.5%	3.7%	-1.5%
8歳	—	-5.4%	0.8%	-5.1%	0.1%	-7.8%	4.4%
9歳	—	3.8%	-5.4%	0.5%	-5.1%	0.1%	-7.1%
10歳	—	-0.5%	3.6%	-5.8%	0.8%	-4.9%	0.0%
11歳	—	0.5%	-0.4%	3.1%	-5.9%	0.9%	-4.2%
12歳	—	-1.6%	0.8%	-1.4%	3.4%	-5.7%	1.1%
13歳	—	4.6%	-1.6%	0.6%	-1.3%	3.7%	-5.5%
14歳	—	-1.0%	4.4%	-2.0%	1.3%	-1.5%	3.6%
15歳	—	6.1%	-0.8%	3.4%	-2.0%	1.7%	-0.8%
16歳	—	-1.1%	6.3%	-1.0%	3.7%	-2.0%	1.6%
17歳	—	-2.1%	-1.0%	5.8%	-0.7%	3.8%	-1.9%
18歳	—	3.6%	-1.1%	-2.1%	6.8%	-0.2%	3.2%
19歳	—	1.0%	3.1%	-1.6%	-2.4%	8.5%	1.0%
20歳	—	-5.9%	1.2%	2.2%	0.3%	-2.6%	9.8%

(3) 男女別の動向

平成 2 年以降の人口動向を男女別にみると、男女とも増加を続けているが、男性はその傾向が鈍化しているのに対し、女性の増加傾向は相対的にみて堅調であることがわかる。その結果として、平成 17 年まで男性の方が上回っていた人口総数も、22 年には逆転し女性の方が多くなっている。

男女間で年齢 3 区分別の内訳をみると、年少人口の減少幅には大差ないが、女性の方が生産年齢人口の減少幅が少なく、老年人口の増加幅が大きいことがわかる。年齢構成上での高齢化の進展が、相対的にみた女性の増加の要因となっているといえる。

◇男女別人口動向の推移 資料：国勢調査（総務省）



◇男女別年齢 3 区分別 人口動向 資料：国勢調査（総務省）

【男性】	H2年	H22年	増減数	増減率
年少人口	43,250	31,157	△ 12,092	-28.0%
生産年齢人口	176,240	162,090	△ 14,150	-8.0%
老年人口	12,553	47,427	34,874	277.8%
総人口	232,043	240,674	8,631	3.7%

【女性】	H2年	H22年	増減数	増減率
年少人口	41,410	29,600	△ 11,810	-28.5%
生産年齢人口	164,791	157,926	△ 6,865	-4.2%
老年人口	17,966	56,257	38,291	213.1%
総人口	224,167	243,783	19,616	8.8%

2. 人口動態の分析

(1) 自然動態・社会動態別の動向

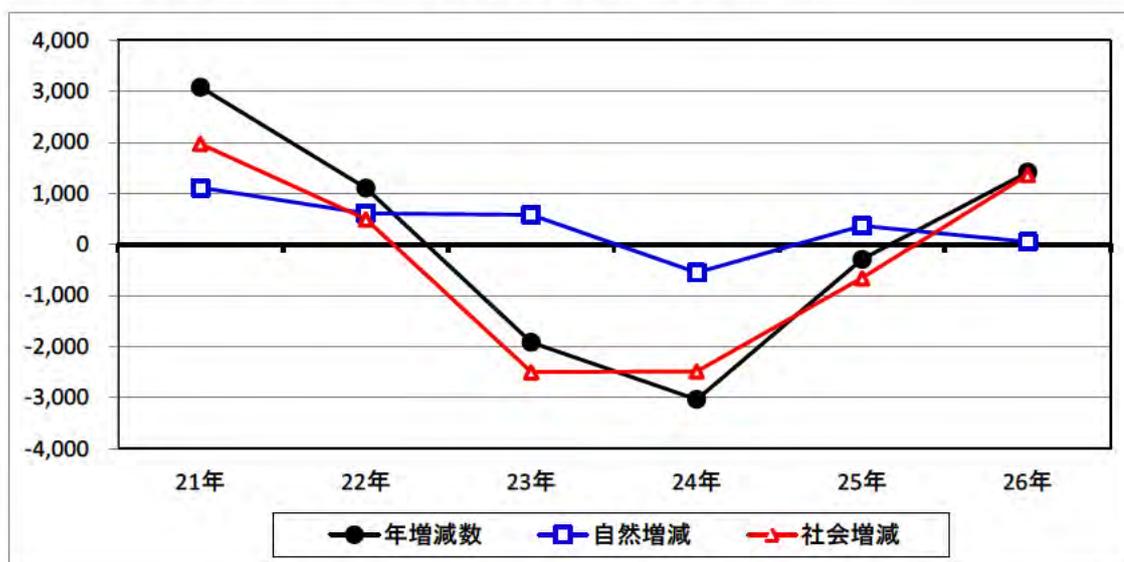
21年以降の「自然増減数」と「社会増減数」の動きをみてる。

「自然増減数(出生数-死亡数)」は、傾向的には減少を続けている。21年には1,000人超のプラスであったが、26年にはほぼゼロの水準となっている。

一方「社会増減数(転入数-転出数)」は、22年までのプラスから、震災後の23年には2,000人超のマイナスに陥った。24年もこの傾向が続いたが、25年以降回復に転じ、26年には1,000人以上のプラスとなっている。

「自然増減数」と「社会増減数」の和である、トータルでの増減数は、動きが顕著な「社会増減数」に引っ張られる形になり、震災後の23、24年のマイナスから26年にかけては回復傾向となっている。

◇自然増減・社会増減の推移 資料：住民基本台帳（松戸市）

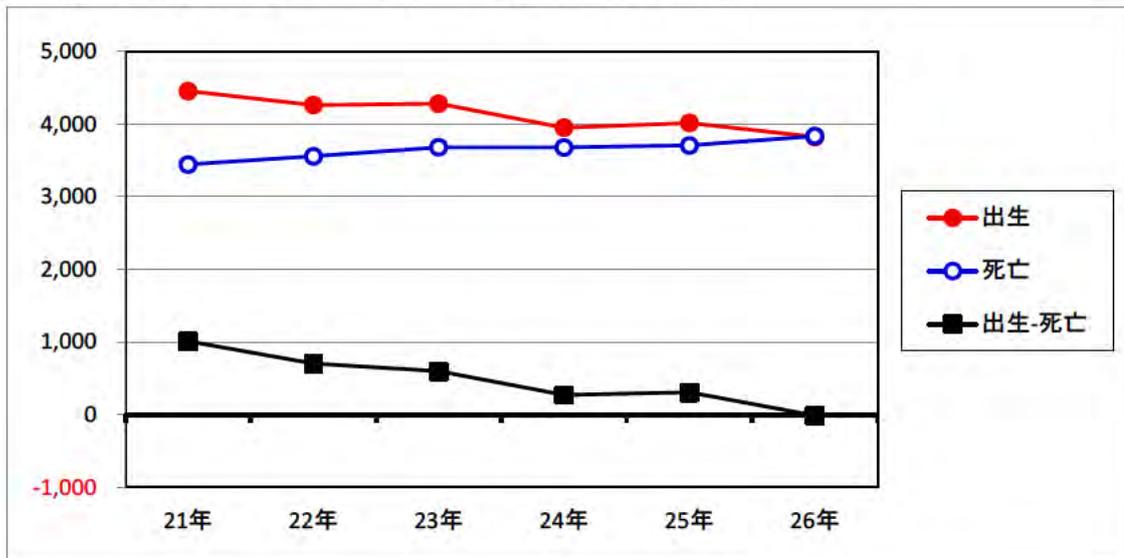


(2) 自然動態の動向

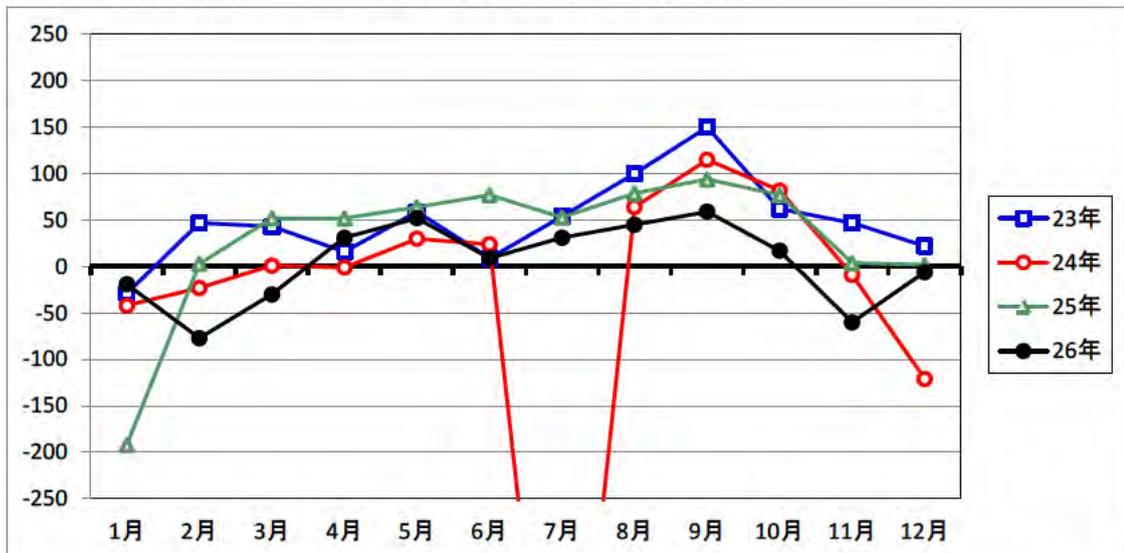
①出生数・死亡数の動向

自然動態の内訳をみると、出生数は減少し、死亡数は増加を続けている。21年から26年までの5年の間に、年間の出生数は632人減少し、同じく年間の死亡数は390人増加した。「出生数-死亡数」で算出される「自然増減数」(注1)は、21年には+1,011人であったが、26年には死亡数が出生数を上回り、マイナスに転じている。

◇出生数・死亡数の推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



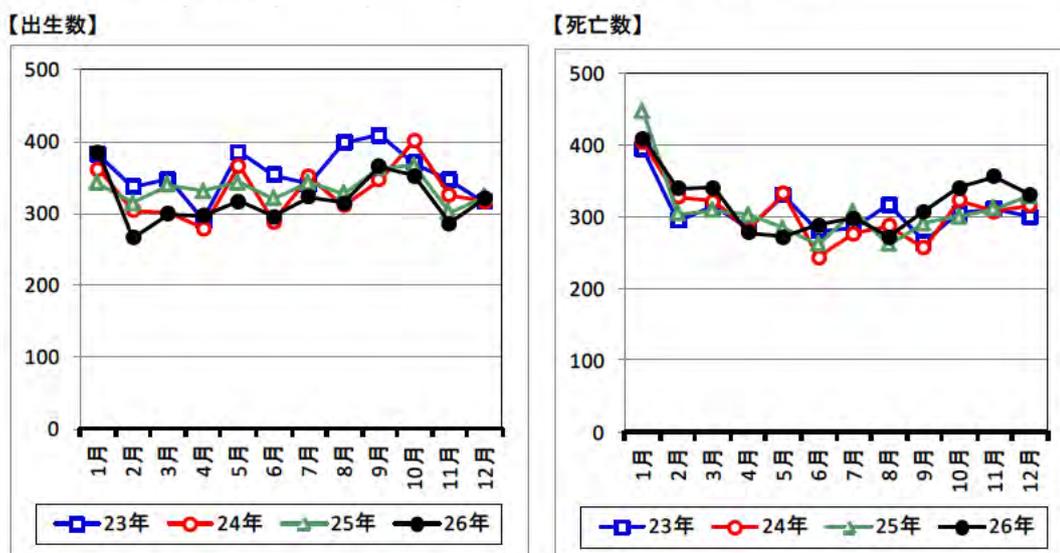
◇自然増減の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



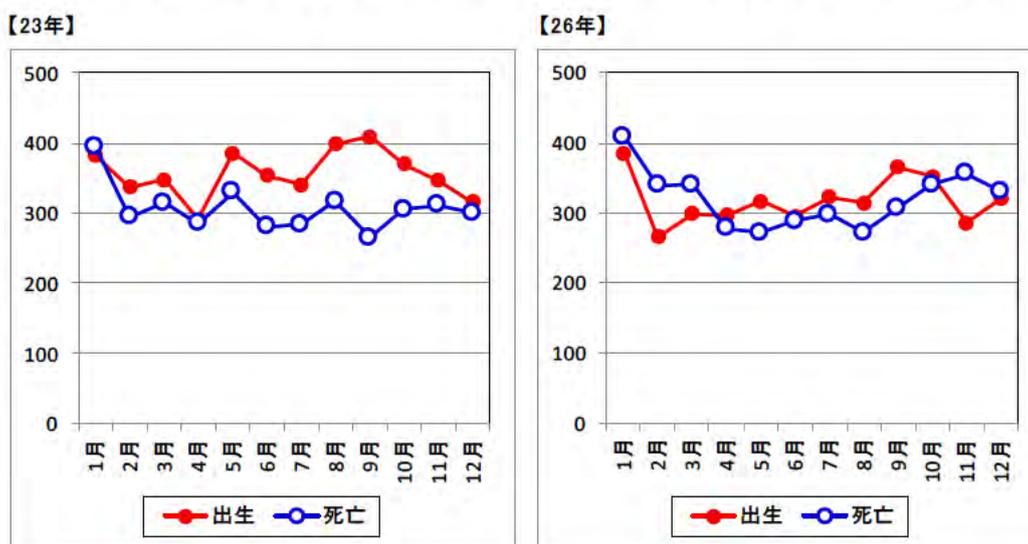
*24/7月の自然増減は△671人。特殊要因である「職権による調整△686人」(主に外国人)が含まれている

23年以降の増減数を月別にみると、年を追うごとに出生数のグラフの曲線は下方に、死亡数のグラフの曲線は上方に移動していることがわかる。23年と26年の出生数、死亡数の月別推移のグラフをみても、出生数の減少、死亡数の増加の傾向がはっきりと見てとれる。

◇出生数・死亡数の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



◇23年と26年の出生数・死亡数の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



（注1）正確に言うると「自然増減数」は、「出生数」と「死亡数」以外にも「職権による追加・削除」を含む。ただし、その数は通常月はわずかであり、ここでは「職権による増減」を除いた数値を提示している。

②合計特殊出生率の動向

松戸市の合計特殊出生率は、平成 18 年の 1.24 から 25 年には 1.36 になっており、近年上昇傾向にあるといえる。

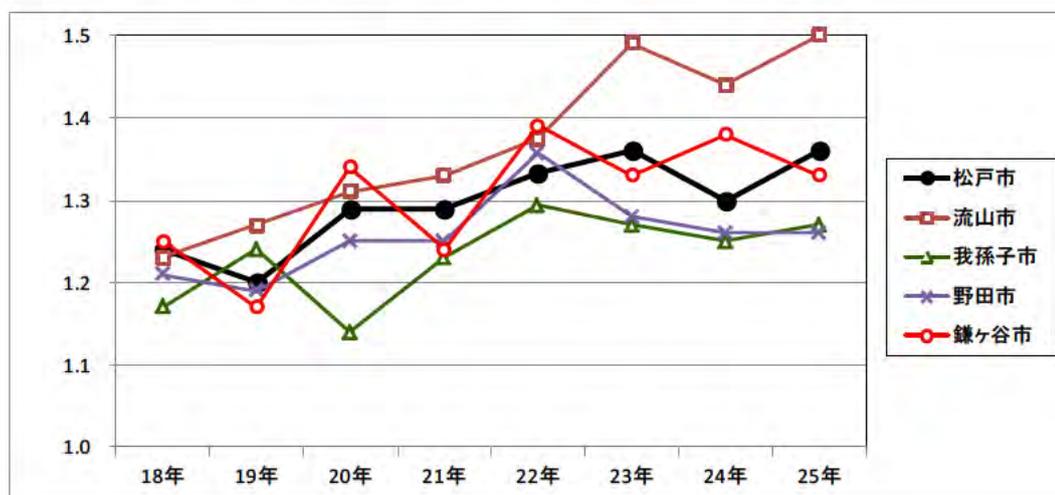
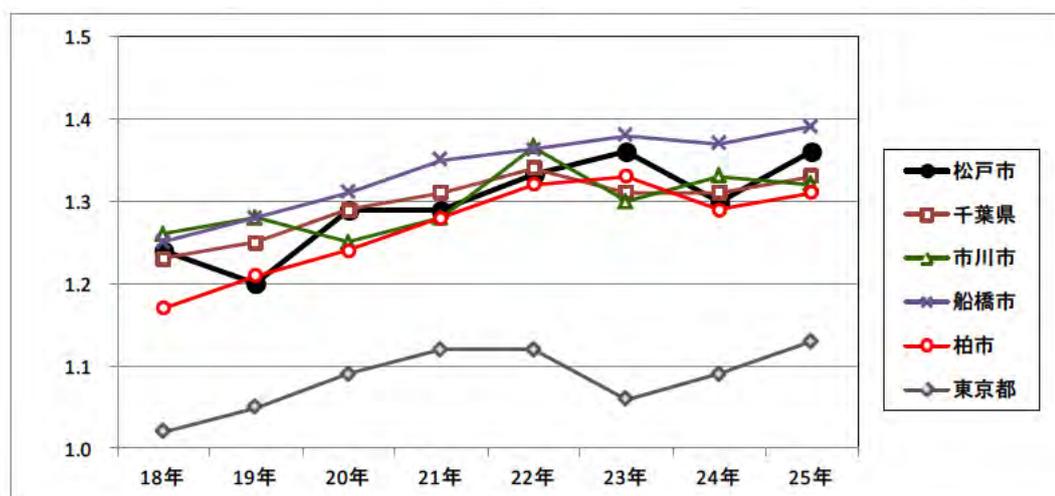
千葉県、及び県内の同規模自治体や近隣自治体の出生率も、やはり上昇している。松戸市の出生率は千葉県のそれと近い動きをしており、県内で平均的な水準だと考えられる。比較した自治体の中では、船橋市と流山市が相対的に高い出生率で推移している。特に流山市は 23 年以降 1.5 近くと県内でもトップクラスの水準となっている。

なお、松戸市を含む千葉県各自治体の出生率は、東京都と比較すると相当程度高い水準で推移していることがわかる。

◇松戸市の合計特殊出生率の推移 資料：千葉県

	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
松戸市	1.24	1.20	1.29	1.29	1.33	1.36	1.30	1.36

◇県内自治体・千葉県・東京都との合計特殊出生率の比較 資料：千葉県



③出生率低迷の背景～未婚率の上昇

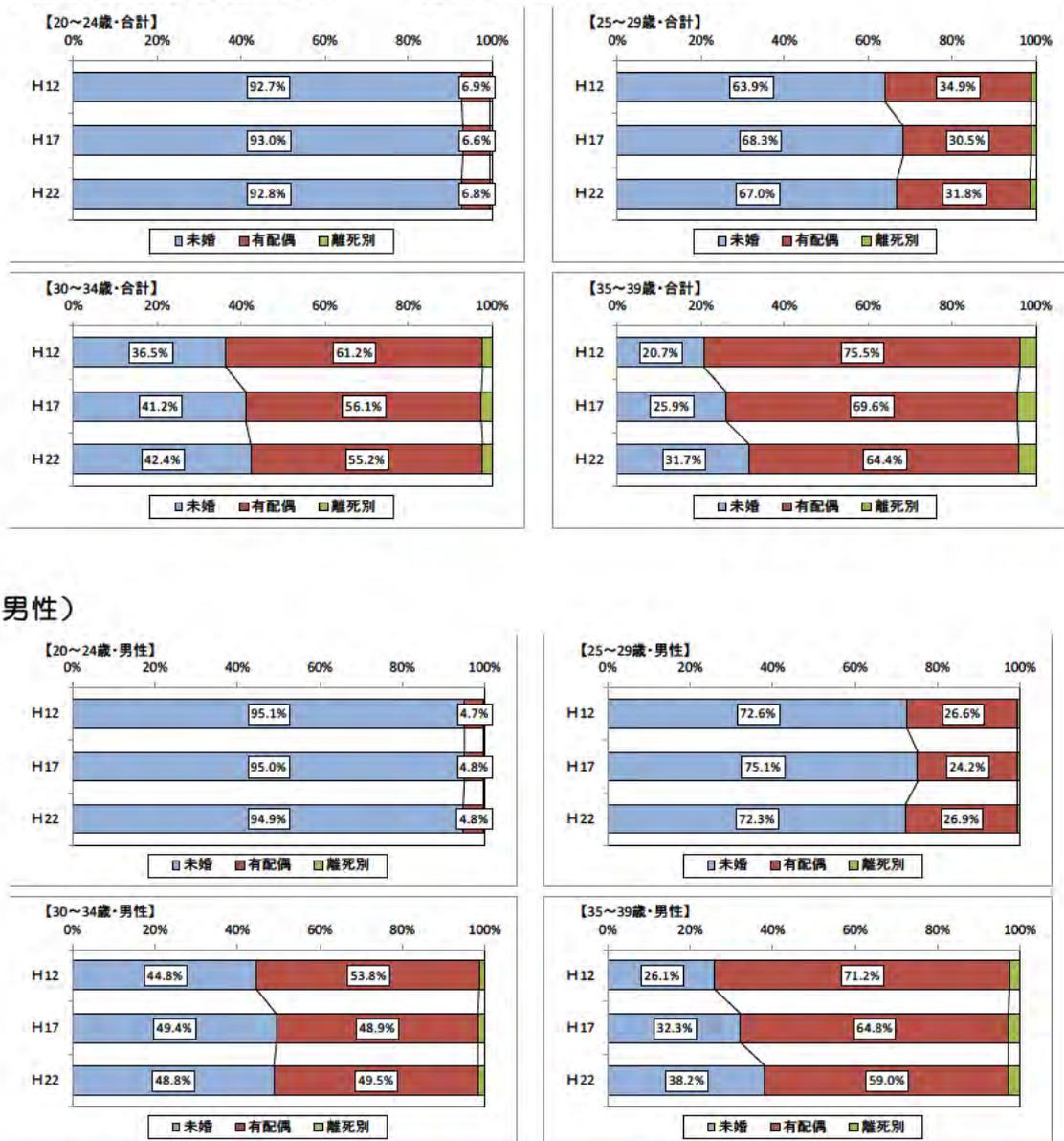
出生率に影響を与えと考えられる20歳代、30歳代の配偶関係の動向について、平成12年、17年、22年の国勢調査からみている。

松戸市では、平成12年以降、一部（25～29歳の階層）を除いて未婚者の比率が上昇している。男女別で比較してみると、30～34歳で男性が17年と22年が同水準であるのに対し、女性では比率は上昇していることが目立つ。

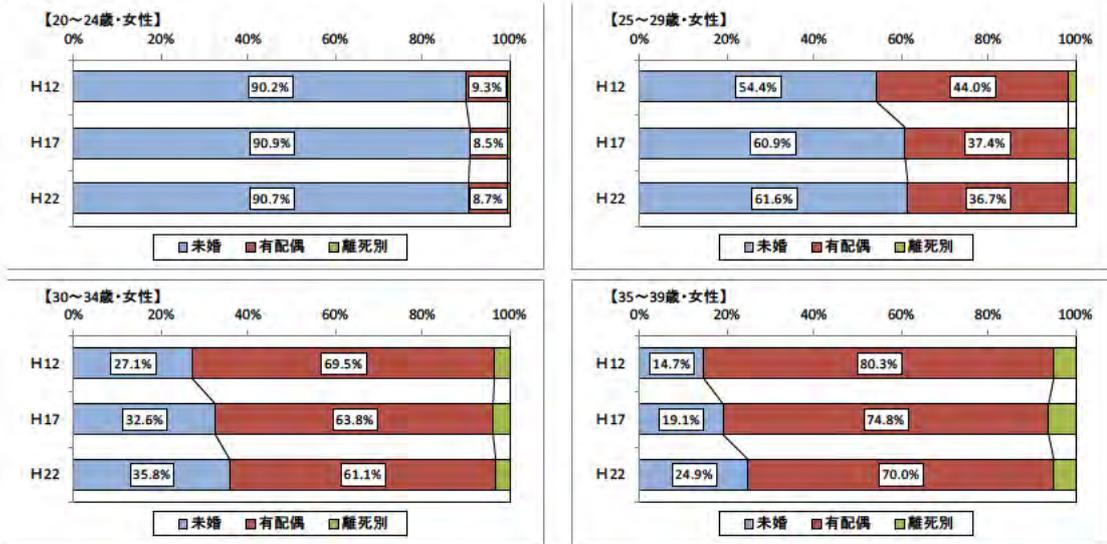
未婚率の上昇は、少子化の大きな要因となっているものと考えられる。

◇年齢階層別配偶関係の推移

資料：国勢調査（総務省）

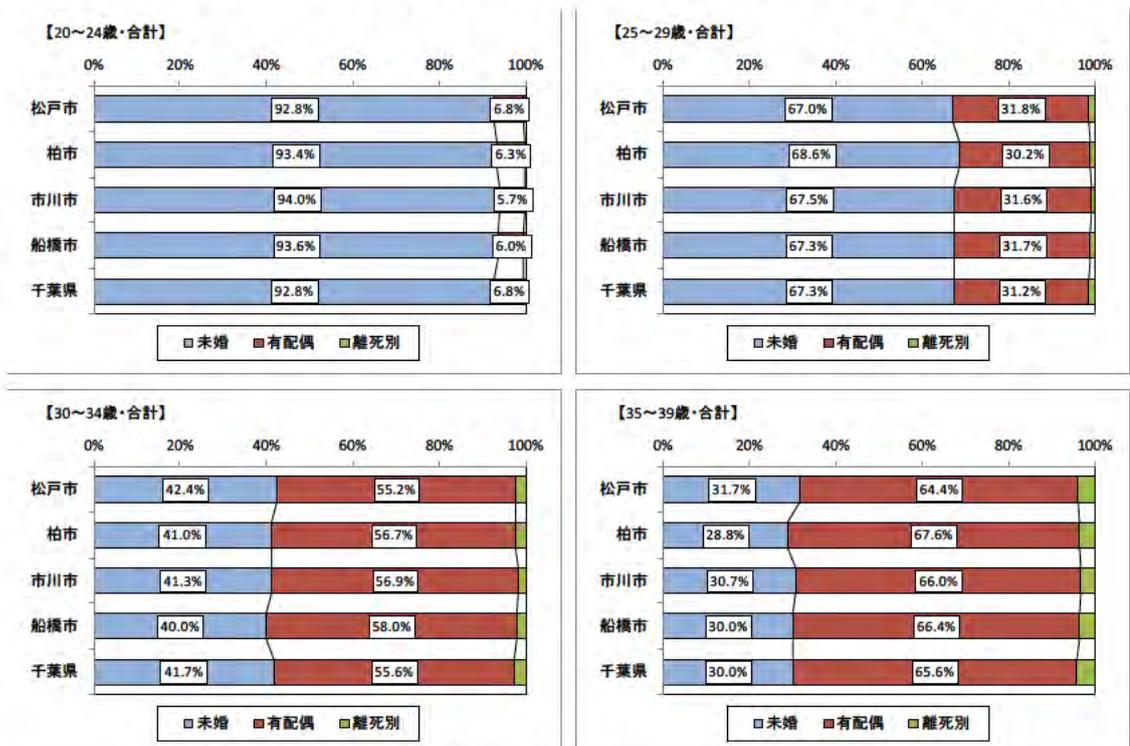


(女性)



平成 22 年時点での松戸市の未婚者の比率を、近隣市及び千葉県の構成比と比較してみると、大きな差異はないものの、30～34 歳、35～39 歳の階層でやや上回っていることがわかる。

◇年齢階層別配偶関係の近隣市・千葉県との比較（平成 22 年） 資料：国勢調査（総務省）



(3) 社会動態の動向

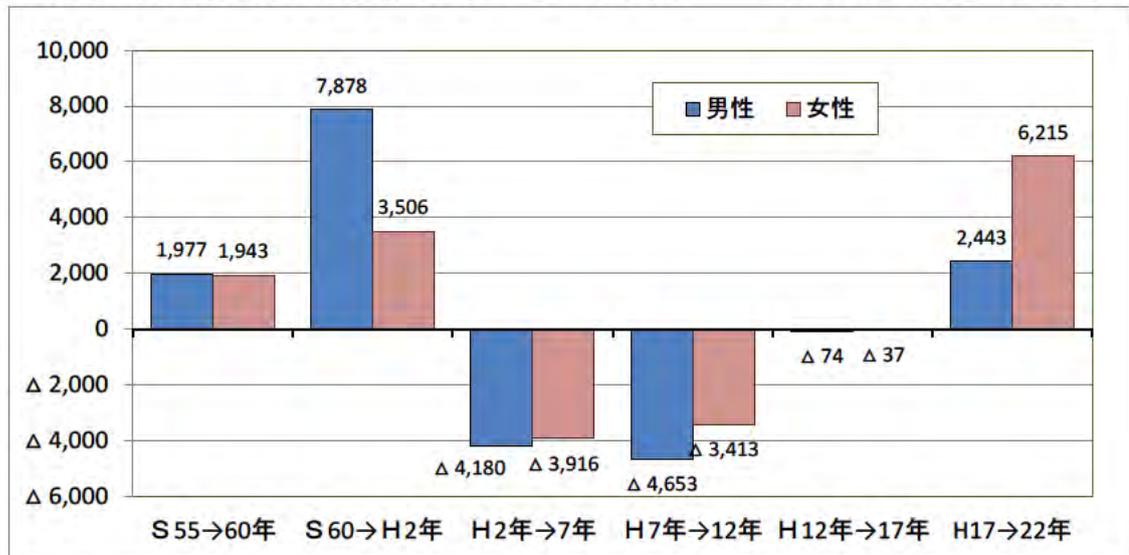
社会動態の動向を長期的にみると、平成2年までは転入超過が続いていたが、バブル崩壊以降、市内への転入傾向が鈍化した時期には転出超過に転じている。その後、緩やかに景気の回復傾向が続いた近年では再び転入超過に戻している。

男女別の転入超過数では、S60⇒H2年に男性の数値が大きく、H17⇒22年に女性の数値が大きいことが目立つ。それぞれの年齢階層をみると、S60⇒H2年には、男性の10代後半から20代前半の超過幅が大きく、H17⇒22年には、30代後半から40代前半で女性の転入超過幅が大きくなっている。

◇社会動態（転入超過数）の長期的推移 資料：国勢調査（総務省）

	S55→60年	S60→H2年	H2年→7年	H7年→12年	H12年→17年	H17→22年
転入超過数	3,920	11,383	△ 8,096	△ 8,066	△ 111	8,658

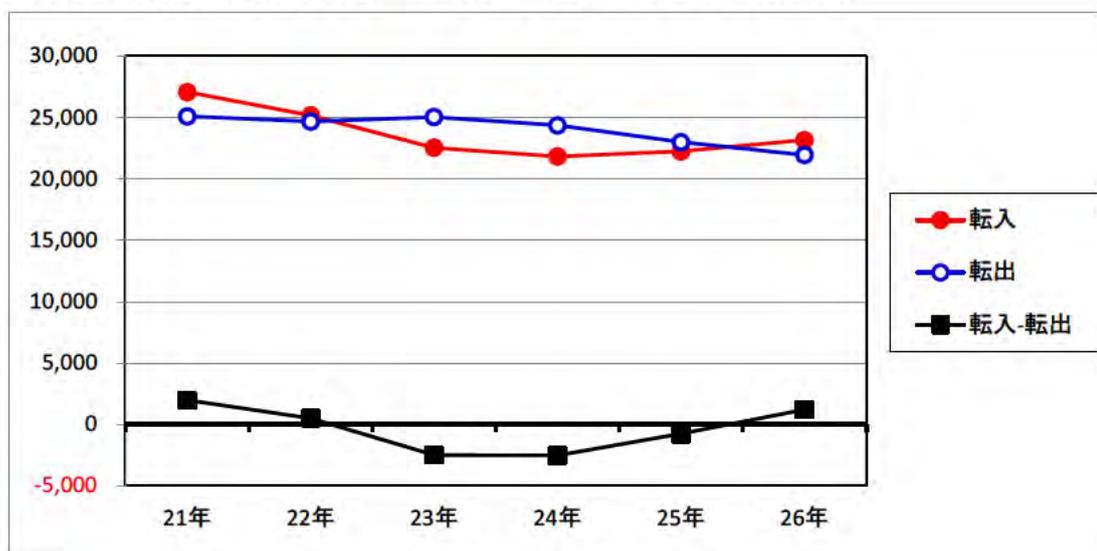
◇社会動態（転入超過数）の長期的推移（男女別比較） 資料：国勢調査（総務省）



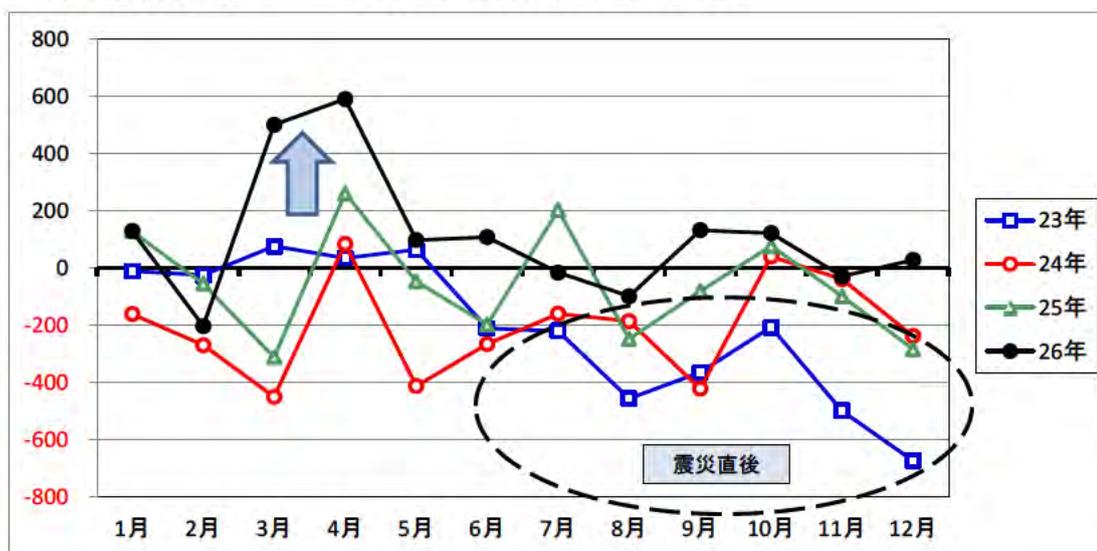
近年の動きをみると、「転入数」は 21 年以降、減少傾向をたどり、震災発生後もその傾向が続いた。しかし 24 年にはほぼ下げ止まり、その後は増加傾向に転じている。「転出数」は、横ばい傾向をたどっていたが、震災後の 23 年にはやや増加となった。しかしその後は減少傾向を続けている。

「転入数－転出数」で算出される「社会増減数」(注2)は、震災の影響があった 23 年と翌 24 年はマイナスとなったが、その後は回復に転じている。直近の 26 年は「転入の増加」と「転出の減少」、両方の傾向がみとれる。

◇転入数・転出数の短期的推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



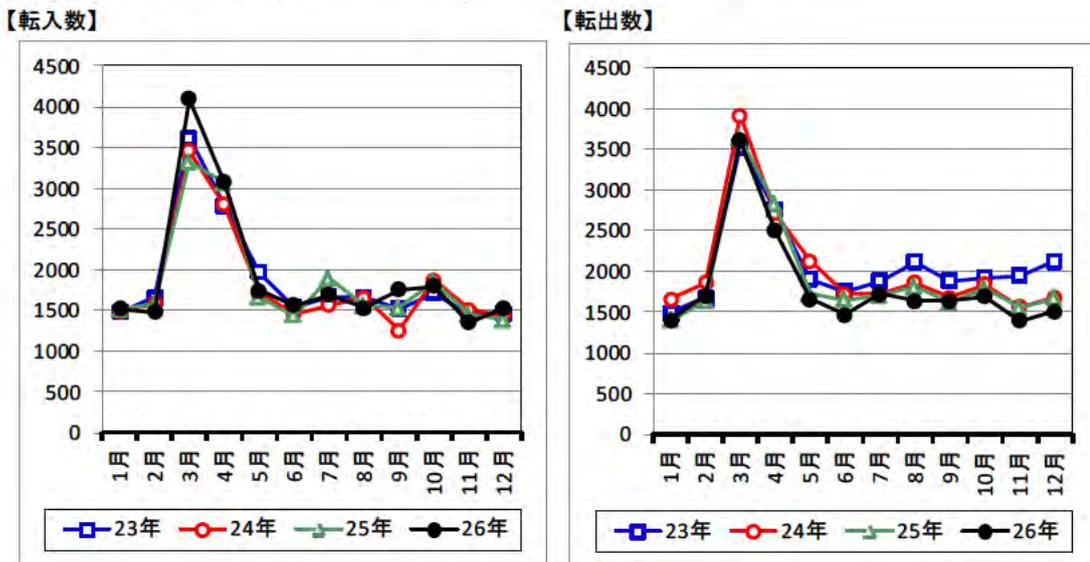
◇社会増減の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



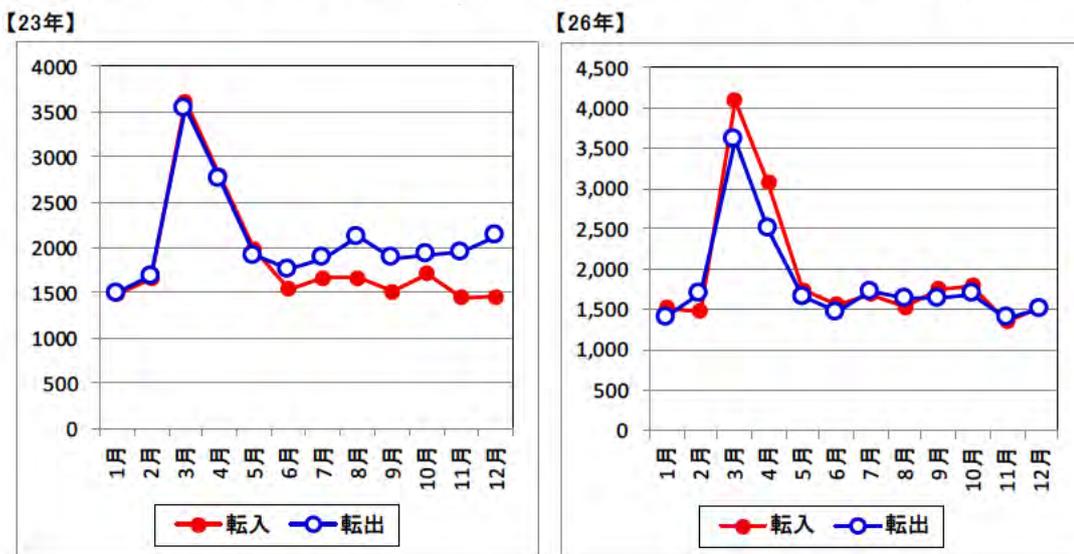
23年以降の増減数を月別にみると、震災後の23年の夏場以降に大きな転出超過となっている。しかしその後26年にかけて、グラフの曲線は上方へ移動していることがわかる。

23年と26年の転入数と転出数の月別推移のグラフをみても、23年は夏場以降、転出数が毎月転入数を大きく上回っていたのに対し、26年は転入数の方が多い月が目立っていることがわかる。

◇転入数・転出数の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



◇23年と26年の転入数・転出数の月別推移 資料：住民基本台帳（松戸市）



（注2）正確に言うると「社会増減数」は、「市内の他住所への転居」も含まれる。ただし、ここでは松戸市と市外との関係を示すために「市内への転居」を除いた数値を提示している。

(4) 年齢別移動動向の分析

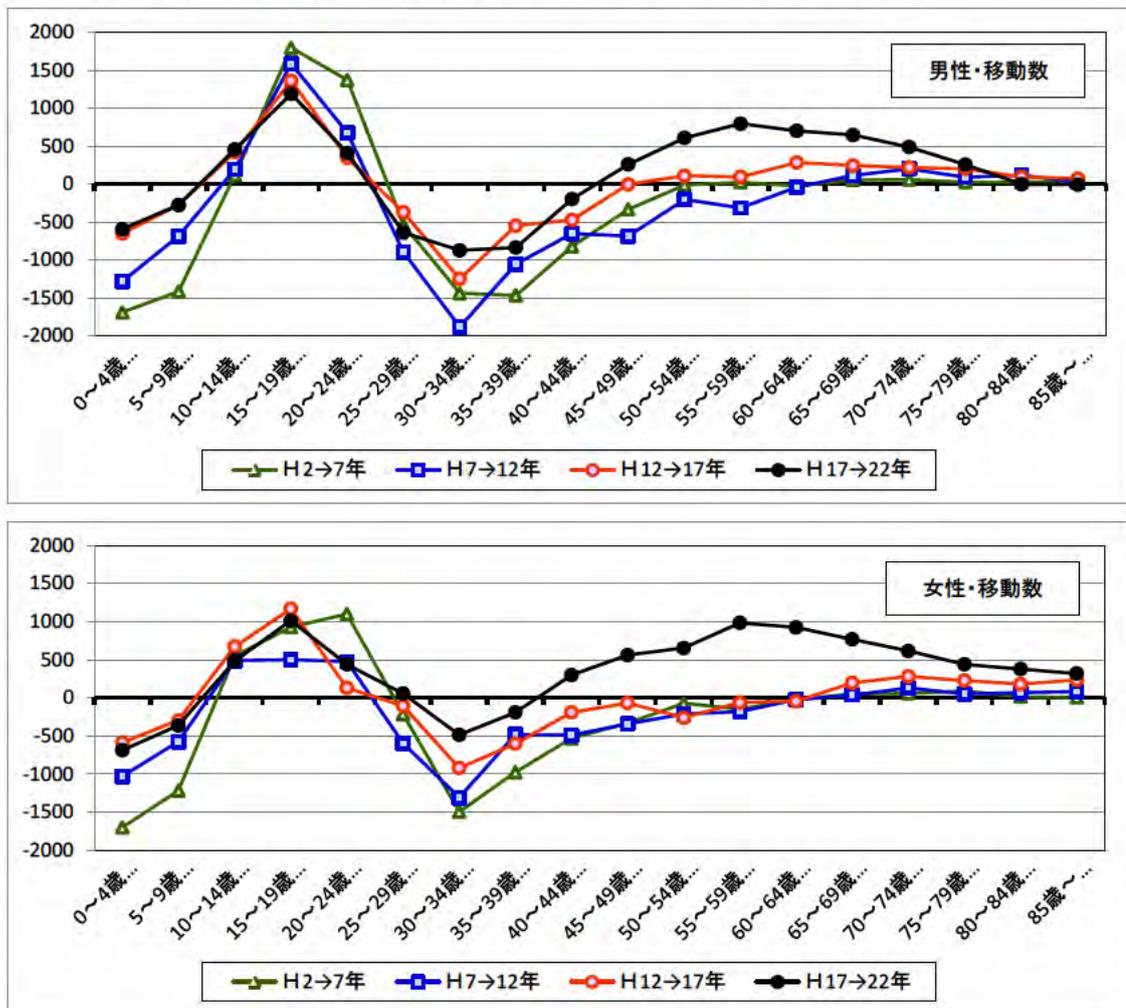
①時系列での推移

松戸市の年齢別移動の社会動態で最も目につくことは「10歳代後半を中心とした若年層の転入が多い」ことである。これは「都市部の自治体」の特徴といえる。

「15-19歳⇒20-24歳」の山の高さ（転入超過幅の大きさ）は、以前は男性の方が女性より高かったが、その後は男性の山が低くなり、平成17⇒22年には男女が近い水準となっている。また「30-34歳⇒35-39歳」を中心に転出超過の谷があるが、近年ではその谷も男女とも浅くなってきている。

その他では、平成17⇒22年の間に男女とも、40歳代後半以降の転入超過幅が大きく増加している。特にその前まではほぼゼロベースであった女性の転入超過が目立ってきている。

◇年齢別移動数（転入超過数）の時系列推移 資料：国勢調査（総務省）



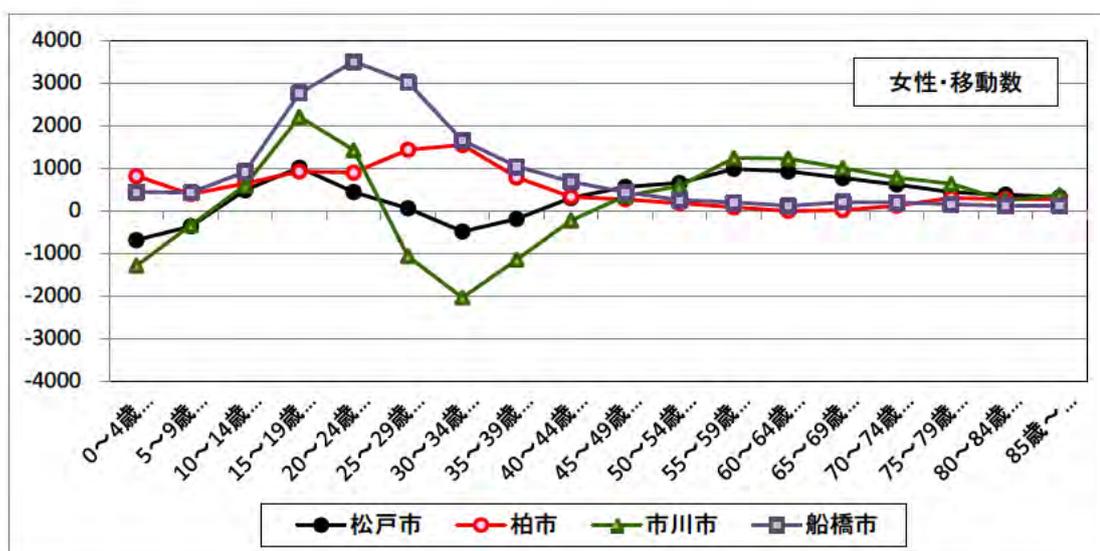
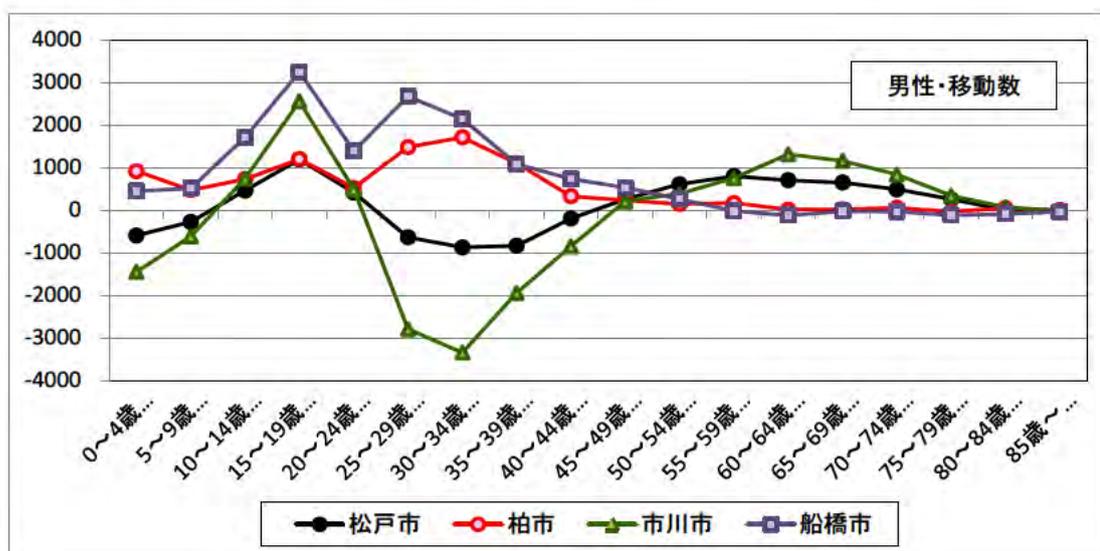
②同規模近隣他自治体との比較

県内で同規模の柏市、市川市、船橋市と、平成 17⇒22 年の転入超過数を比較してみる。

4 市とも、15-19 歳⇒20-24 歳で大きな転入超過となっているが、その量は船橋市と市川市でより高い水準にある。また 20 歳代後半から 30 歳代にかけては、船橋市と柏市では転入超過であるのに対し、松戸市と市川市は転出超過で、逆の傾向となっている。この傾向は 10 歳未満の階級でも同じで、いわゆるファミリー層の移動動向が関係していると考えられる。

その他では 50 歳代以降で、松戸市と市川市では転入超過であるのに対し、柏市と船橋市は、転入超過幅はほぼゼロとなっている。

◇年齢別移動数（転入超過数）の他市比較（H17⇒22 年） 資料：国勢調査（総務省）



(5) 転入元・転出先の分析

①都道府県との移動

松戸市への転入元、松戸市からの転出先について、25年の数値をみてる（松戸市への転入数は18,859人、松戸市からの転出数は19,590人で、731人の転出超過）。（注3）

◇対都道府県別 転入数・転出数・転入超過数

資料：まち・ひと・しごと創生本部（以下「創生本部」とする）

	転入	転出	転入超過
千葉県	6,073	6,697	△ 624
東京都	4,672	4,907	△ 235
埼玉県	1,588	1,792	△ 204
神奈川県	979	1,187	△ 208
栃木県	945	813	132
大阪府	403	367	36
北海道	345	338	7
愛知県	307	312	△ 5
宮城県	267	279	△ 12
福岡県	247	267	△ 20
静岡県	239	208	31
兵庫県	239	170	69
福島県	201	163	38
茨城県	182	143	39
群馬県	172	159	13
新潟県	159	137	22
長野県	140	149	△ 9
岩手県	114	96	18
青森県	113	86	27
広島県	111	117	△ 6
沖縄県	108	102	6
山形県	94	55	39
秋田県	91	71	20
鹿児島県	88	61	27
京都府	82	109	△ 27
その他	900	805	95
全国	18,859	19,590	△ 731

（注3）本データは国の「まち・ひと・しごと創生本部」により提供されたデータ。これまで扱ってきた県や市のデータとは異なる統計であり、差異がある。

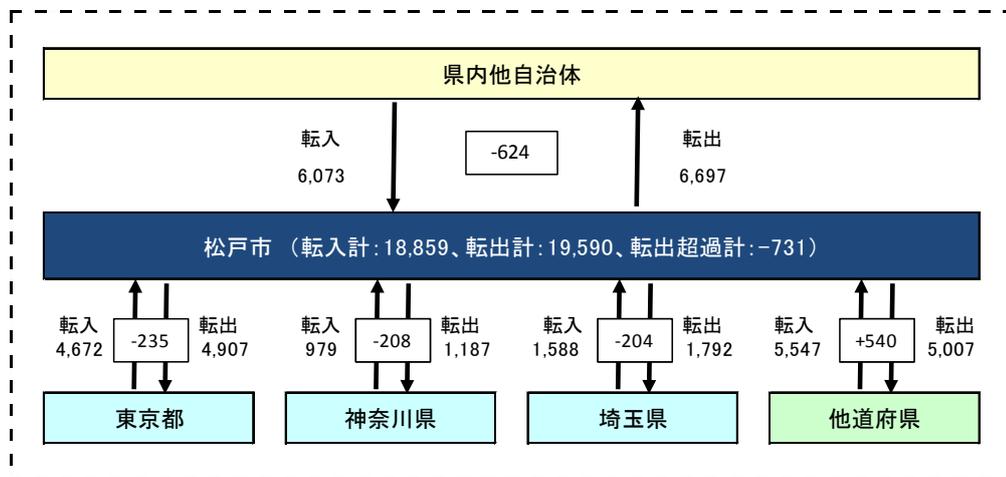
松戸市への転入者（18,859人）の転入元としては、千葉県、すなわち県内の他の自治体からの転入が6,073人と最も多い（全体の32.2%）。これに東京都（4,672人、同24.8%）、埼玉県（1,588人、同8.4%）、神奈川県（979人、同5.2%）が続いており、首都圏1都3県からの転入が全体の70.6%を占めている。

一方、松戸市からの転出者（19,590人）の転出先としては、千葉県、すなわち県内他自治体への転出が6,697人で全体の34.2%となっている。その他の転出先では東京都（4,907人、同25.0%）、埼玉県（1,792人、同9.1%）、神奈川県（1,187人、同6.1%）の順で多く、やはり首都圏への転出が全体の74.4%を占めている。

松戸市と各都道府県との転入超過数をみると、対県内他自治体では624人の転出超過となっている。松戸市の転出超過数合計は731人であるので、その85.4%が県内への転出分ということになる。

他の首都圏各都県との関係では、対東京都で235人、対埼玉県で204人、対神奈川県で208人と、それぞれ転出超過となっている。対千葉県内を含め1都3県との関係では1,271人の転出超過で、その他の道府県との間では、逆に540人の転入超過ということになる。

◇転入・転出動向の整理



【年齢別の動向】

各都県との関係で転入数、転出数、転入超過数を年齢階層別でみると、それぞれ20歳代、30歳代で動きが激しいことがわかる。

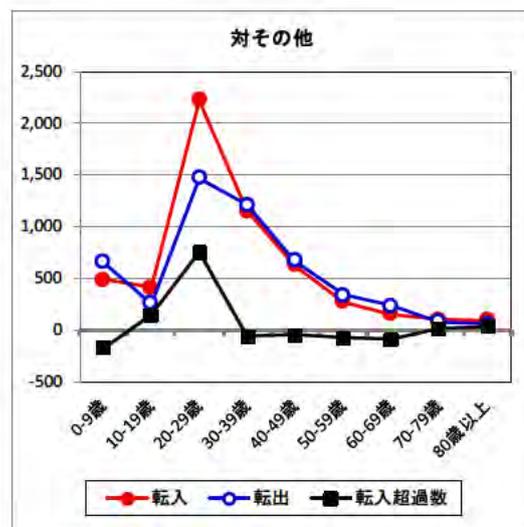
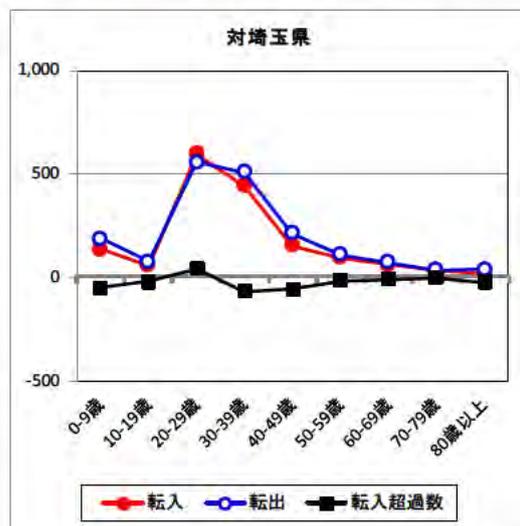
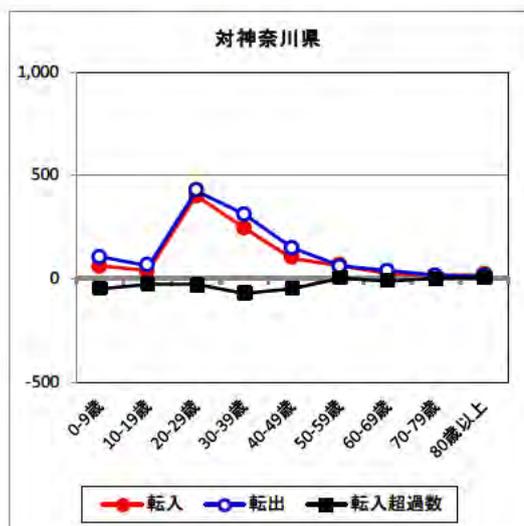
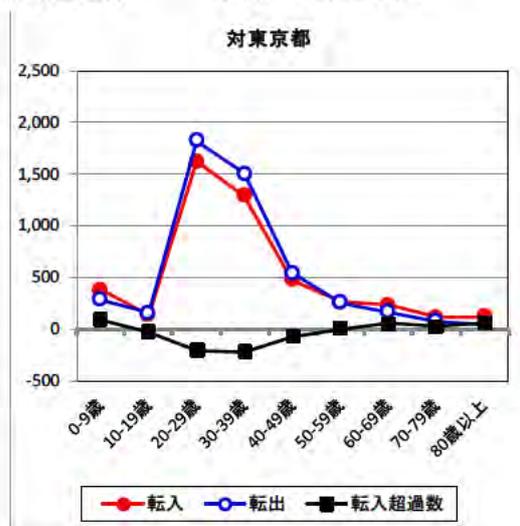
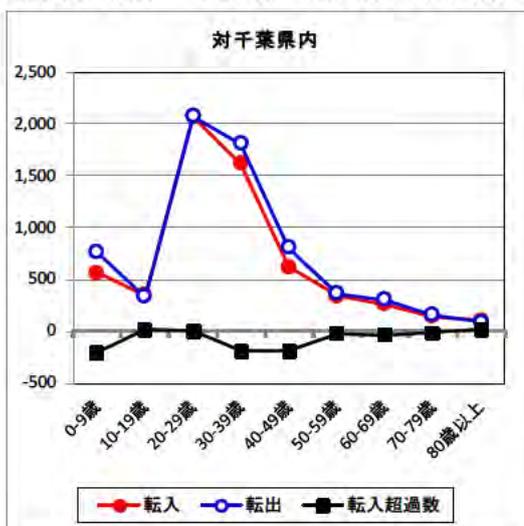
対千葉県内では、20歳代では転入者数と転出者数の差は小さいが、30歳代と0～9歳の層で転出数が転入数を上回っており、その結果転出超過となっている。

対東京都では20歳代と30歳代、対埼玉県と対神奈川県では30歳代で特に転出者数と転入者数との差異が大きく、転出超過幅が大きくなっている。

一方、対他道府県では、20歳代で転入者数が転出者数を大きく上回っている。

◇对主要都県別 年齢別 転入数・転出数・転入超過数

資料：創生本部



②県内他自治体との移動

次に松戸市と県内の他自治体との間での転入数、転出数、転入超過数の動向をみる。

松戸市への転入者が多かったのは隣接する柏市（1,126人）、市川市（1,008人）で、それぞれ県内への転入者全体の18.5%、16.6%を占めている。以下、船橋市（729人）、流山市（597人）、千葉市、鎌ヶ谷市（ともに470人）の順となっている。

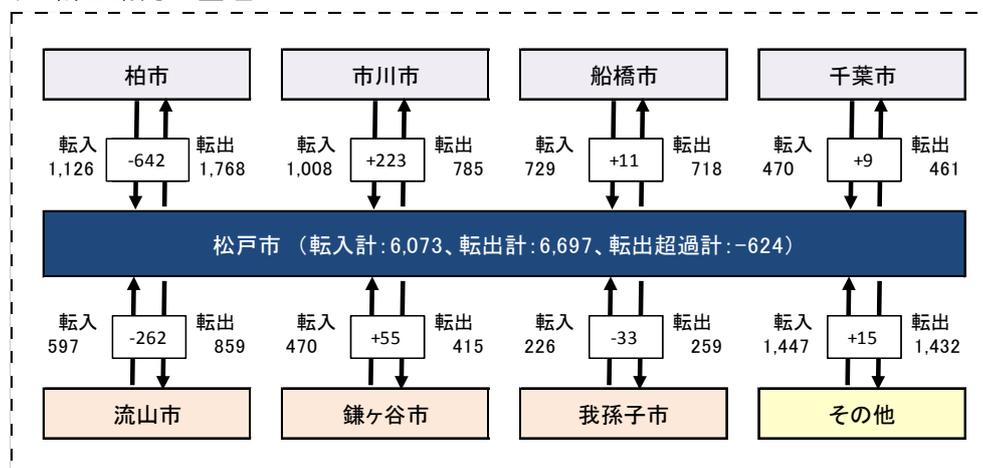
松戸市からの転出者については、柏市が1,768人（県内への転出者全体の26.4%）と突出して多い数値となった。流山市が859人で続いており、松戸市からTX沿線地区への転出が多いことが推察される。

松戸市と県内各自治体との間の転入超過数をみると、対柏市で642人、対流山市で262人の転出超過となっている。県内全自治体との関係で624人の転出超過であるため、2市との関係での転出超過幅（904人）は、これを大きく上回っている、すなわち2市以外の自治体との関係では、松戸市は転入超過であることがわかる。特に対市川市では、223人の転入超過となっている。

◇対県内主要自治体別 転入数・転出数・転入超過数 資料：創生本部

	転入	転出	転入超過
柏市	1,126	1,768	△ 642
市川市	1,008	785	223
船橋市	729	718	11
千葉市	470	461	9
流山市	597	859	△ 262
鎌ヶ谷市	470	415	55
我孫子市	226	259	△ 33
その他	1,447	1,432	15
県内計	6,073	6,697	△ 624

◇転入・転出動向の整理



【年齢別の動向】

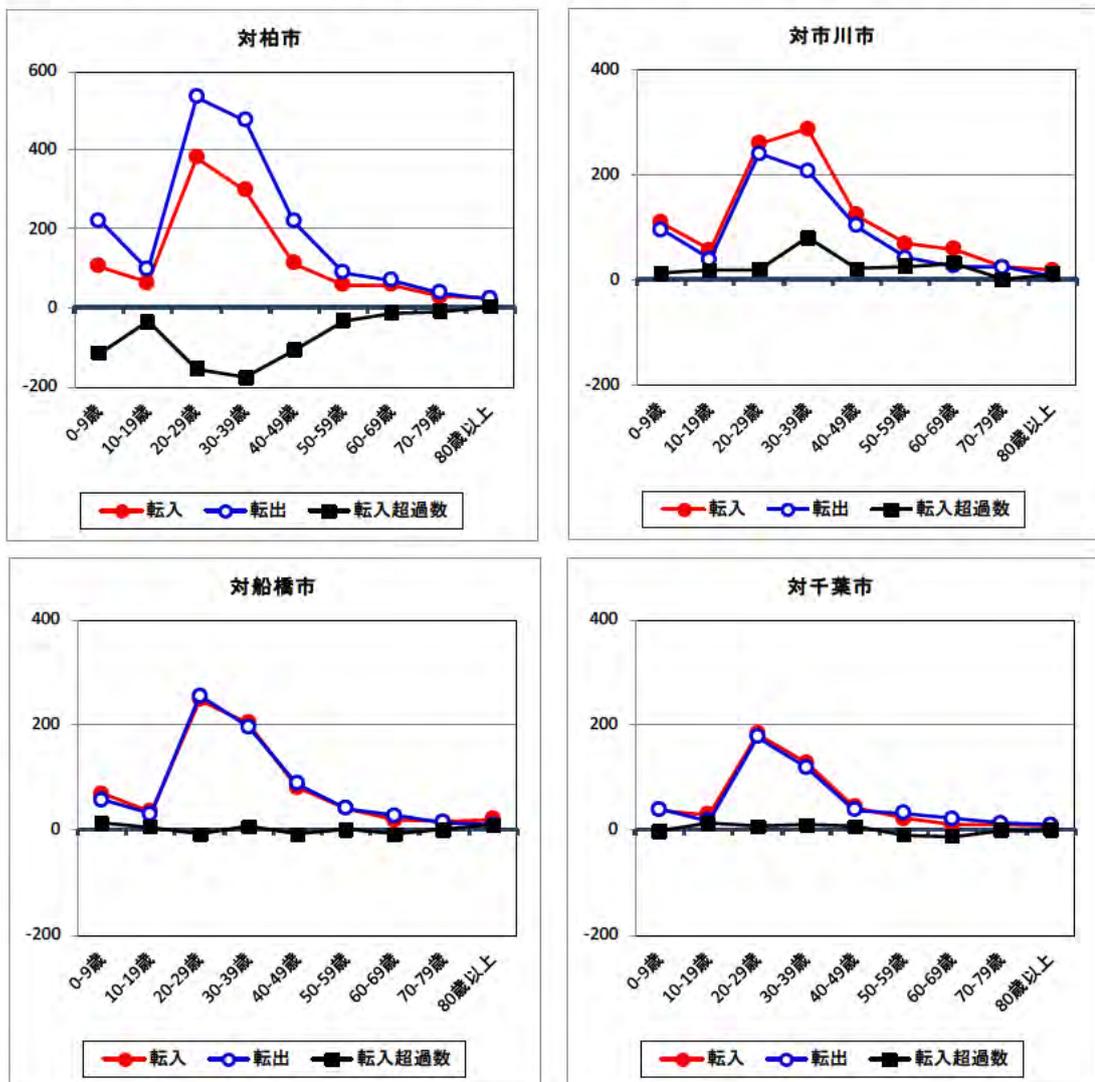
県内各自治体との関係で転入数、転出数、転入超過数を年齢階層別でみると、やはりそれぞれ20歳代、30歳代で移動の動きが大きいことがわかる。

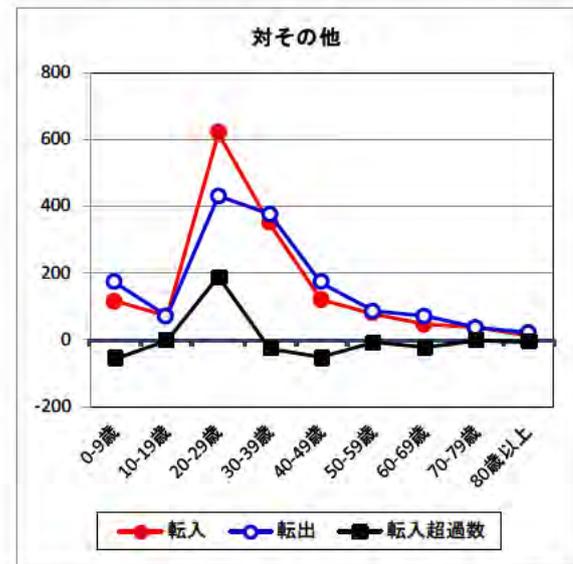
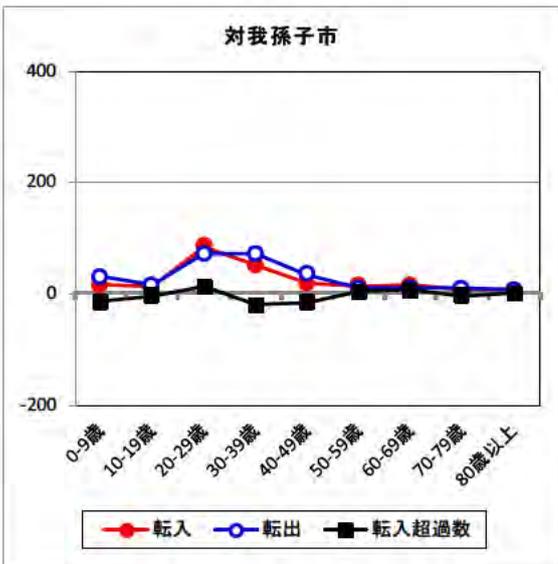
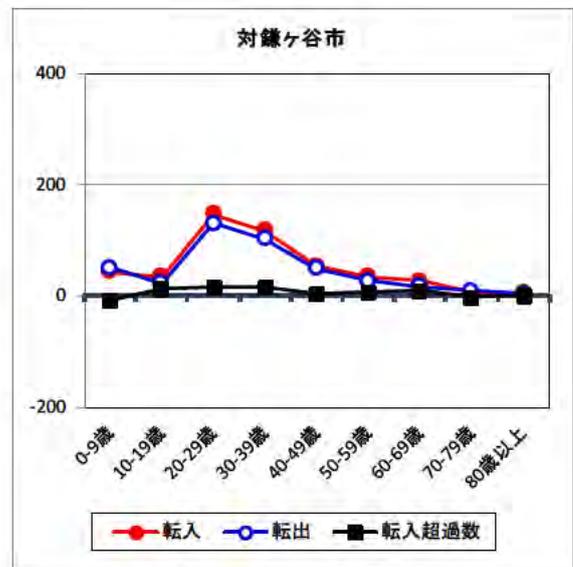
対柏市ではほとんどの年齢階層で転出数が転入数を上回っているが、特に20歳代、30歳代と0-9歳の層でその差が大きく、転出超過幅が拡大している。この傾向は対流山市でも同様で、相当数のファミリー層が、松戸市から2市へ転出していることが推察される。

対市川市では、逆に30歳代で転入数が転出数を大きく上回っており、転入超過幅が大きくなっている。

これ以外では、対その他の自治体で、20歳代で転入超過幅が大きくなっている。

◇対県内自治体別 年齢別 転入数・転出数・転入超過数 資料：創生本部





③ 県外主要自治体との移動

県外の自治体（東京都内の「区」を含む）で転入数、転出数が多い先をあげると、以下の表ようになる。

都内では、松戸市から都心へ通じているJR常磐線の駅が立地している葛飾区、足立区との間の転入、転出が多い。松戸市は対葛飾区では50人、対足立区では24人の転入超過となっている。都内のその他では、江戸川区、江東区、世田谷区などとの間で転入、転出が多い。

神奈川県では横浜市、川崎市との間で移動が多いが、松戸市は2つの市に対して大きな転出超過となっている。

埼玉県ではさいたま市や隣接する三郷市との間での移動が多い。

JR常磐線につながる茨城県の自治体の中では、取手市との間での移動が最も多いが、転入者数、転出者数とも100人強で、さほど多い数値とはなっていない。

◇ 県外主要先別 転入数・転出数・転入超過数

資料：創生本部

	転入	転出	転入超過
東京都23区	4,073	4,245	△ 172
葛飾区	545	495	50
足立区	564	540	24
江戸川区	406	354	52
江東区	220	206	14
世田谷区	208	241	△ 33
大田区	203	168	35
荒川区	182	174	8
台東区	155	158	△ 3
横浜市	377	523	△ 146
川崎市	256	297	△ 41
さいたま市	259	330	△ 71
三郷市	234	271	△ 37
川口市	147	176	△ 29
取手市	136	119	17
つくば市	85	82	3



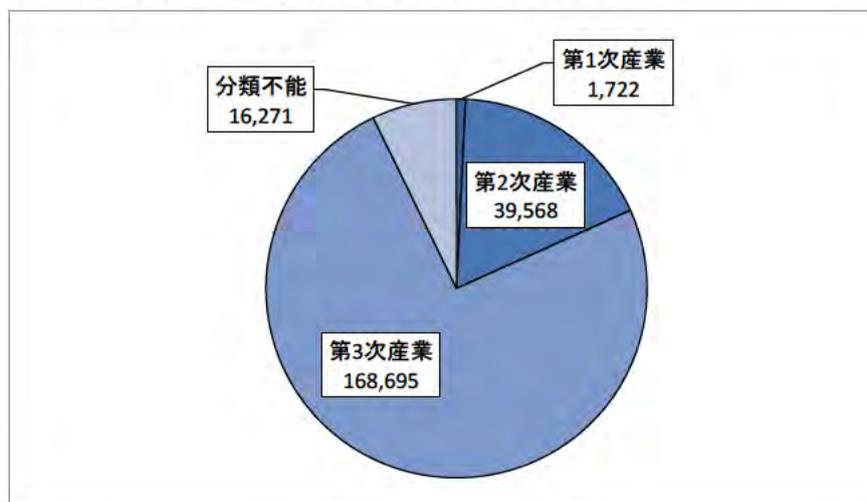
3. 就業・雇用に関する分析

(1) 産業別就業人口

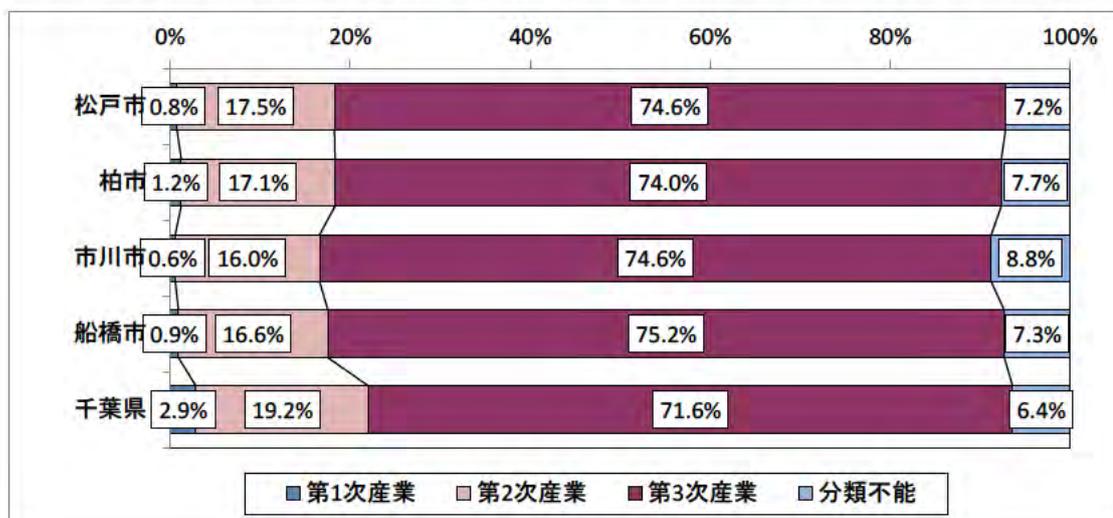
平成 22 年における松戸市の就業者数の合計は、226,256 人となっている。産業大分類の内訳をみると、第 3 次産業が 168,695 人と最も多く、就業者全体の 74.6% を占めている。第 2 次産業が 39,568 人（同 17.5%）でこれに続いており、第 1 次産業は、わずか 1,722 人（同 0.8%）にとどまっている。

この構成比を近隣自治体と比較してみると、松戸市は第 2 次産業の比率がやや高いことがわかる。なお、ここで比較した松戸市を含む 4 市は、県内でも都市部に位置していることから、千葉県全体と比較すると第 1 次、第 2 次産業の比率が低く、第 3 次産業の比率が高くなっている。

◇産業大分類別就業者数 資料：国勢調査（総務省）

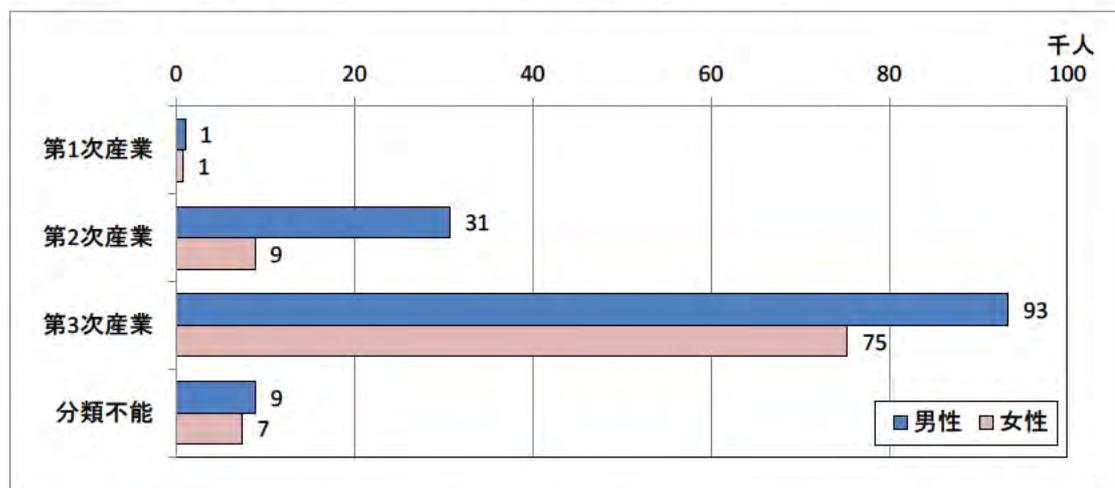


◇近隣市及び千葉県の産業大分類別就業者比率との比較 資料：国勢調査（総務省）



松戸市の就業者数を男女別にみると、各分類で男性の方が多くことがわかる。特に製造業と建設業が主力である第2次産業で両者の差異が大きく、就業者のうちの77.6%が男性となっている（全就業者の男女比 男性：59.2%、女性：40.8%）。

◇男女別 産業大分類別就業者数 資料：国勢調査（総務省）

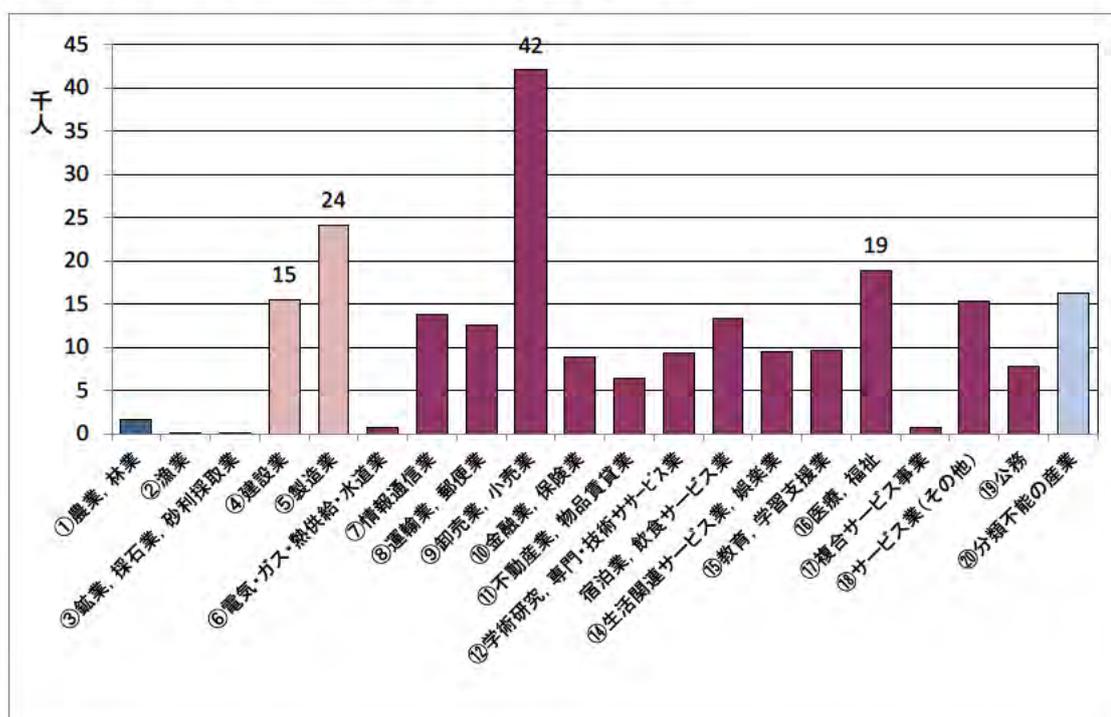


個別の産業分類別の就業者数をみると、第3次産業の「卸売・小売業」が42千人で最も多く（全就業者の18.6%）、これに「製造業」（24千人、同10.6%）、「医療・福祉」（19千人、同8.3%）、「建設業」（15千人、同6.8%）などが続いている。

近隣3市と、産業分類別の就業者の比率を比較すると、「製造業」「卸売・小売業」「医療・福祉」で相対的に比率が高くなっており、松戸市の特徴といえる。逆に「運輸業・郵便業」「情報通信業」の比率は低い傾向にある。

◇産業分類別就業者数

資料：国勢調査（総務省）



◇近隣市との産業分類別就業者数の比較

資料：国勢調査（総務省）

	A.松戸市	柏市	市川市	船橋市	B.3市平均	A-B
① 農業, 林業	0.8%	1.2%	0.5%	0.9%	0.9%	-0.1%
② 漁業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
③ 鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
④ 建設業	6.8%	6.9%	6.3%	6.6%	6.6%	0.2%
⑤ 製造業	10.6%	10.1%	9.7%	10.0%	10.0%	0.7%
⑥ 電気・ガス・熱供給・水道業	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	-0.1%
⑦ 情報通信業	6.1%	5.5%	8.0%	6.8%	6.8%	-0.7%
⑧ 運輸業, 郵便業	5.6%	6.1%	6.4%	6.9%	6.5%	-0.9%
⑨ 卸売業, 小売業	18.6%	18.0%	17.9%	18.1%	18.0%	0.6%
⑩ 金融業, 保険業	3.9%	4.1%	4.5%	4.4%	4.3%	-0.4%
⑪ 不動産業, 物品賃貸業	2.8%	2.6%	3.1%	2.9%	2.9%	-0.1%
⑫ 学術研究, 専門・技術サービス業	4.1%	4.2%	4.3%	4.0%	4.1%	0.0%
⑬ 宿泊業, 飲食サービス業	5.9%	5.4%	5.8%	5.5%	5.6%	0.3%
⑭ 生活関連サービス業, 娯楽業	4.2%	3.9%	3.8%	4.0%	3.9%	0.3%
⑮ 教育, 学習支援業	4.2%	5.1%	3.9%	4.1%	4.4%	-0.1%
⑯ 医療, 福祉	8.3%	8.5%	7.0%	7.7%	7.7%	0.6%
⑰ 複合サービス事業	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%
⑱ サービス業(その他)	6.8%	6.2%	6.9%	6.7%	6.6%	0.2%
⑲ 公務	3.4%	3.9%	2.4%	3.5%	3.2%	0.2%
⑳ 分類不能の産業	7.2%	7.7%	8.8%	7.3%	7.9%	-0.7%

(2) 年齢別就業人口

① 総数

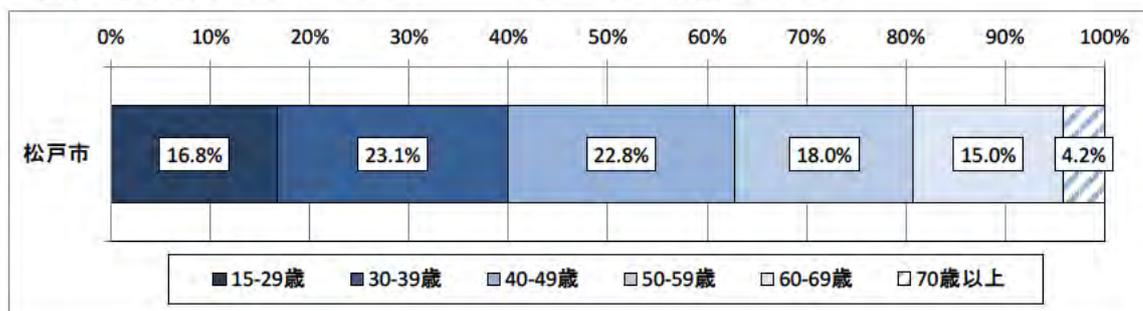
就業者数を、5歳刻みの年齢階層別で分けてみると、35～39歳が28,805人で最も多く（全就業者数の12.7%）、40～44歳（27,700人、同12.2%）、45～49歳（23,989人、同10.6%）が続いている。40歳未満の相対的に若い年齢層は、全体の39.9%となっている。

一方で、70歳以上の就業者も9,482人を数え、相当数の高齢者が働いていることがわかる。

◇年齢別就業者数（平成22年） 資料：国勢調査（総務省）



◇年齢別就業者比率（平成22年） 資料：国勢調査（総務省）



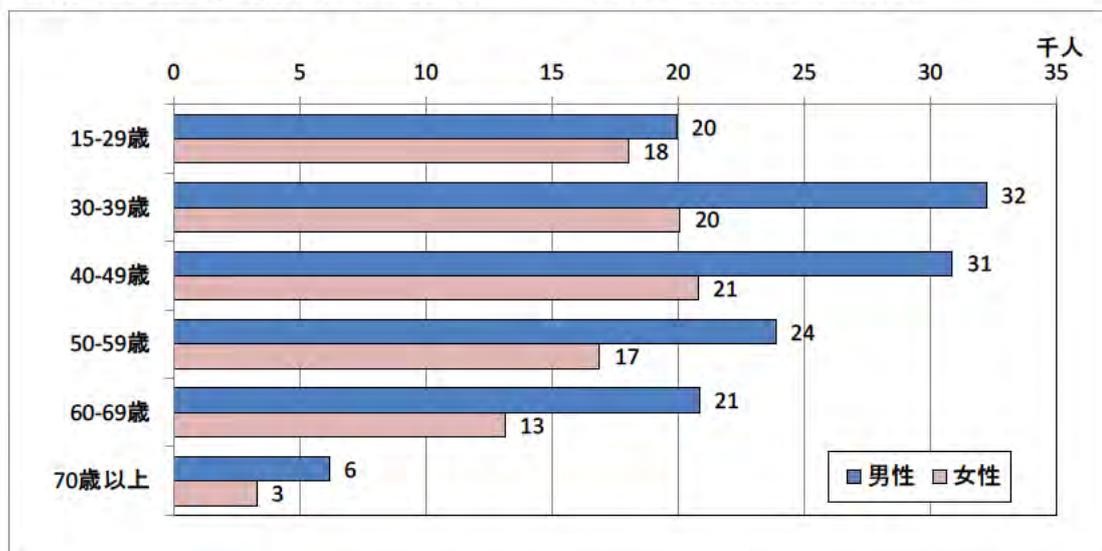
②男女別動向

就業者を男女別で見ると、各年齢階層とも男性の方が多いが、特に出産・子育ての年代にあたる30歳代、40歳代でその差が大きいことが目立つ。男女の就業者数の差異は、15～29歳では2千人であるのに対し、30歳代で12千人、40歳代で10千人も女性の方が少なくなっている。

また、男女の就業者数の差異は50歳代で縮小しているが、60歳代では再び拡大している。男女の合計を100%としたときの女性の比率は、30歳代で38.4%まで低下した後回復をみているが、60歳代（38.7%）、70歳代（34.9%）と再び大きく低下している。

◇年齢別 男女別就業者数（平成22年）

資料：国勢調査（総務省）



◇年齢別 男女別就業者の構成比の比較（平成22年）

資料：国勢調査（総務省）



③近隣自治体との比較

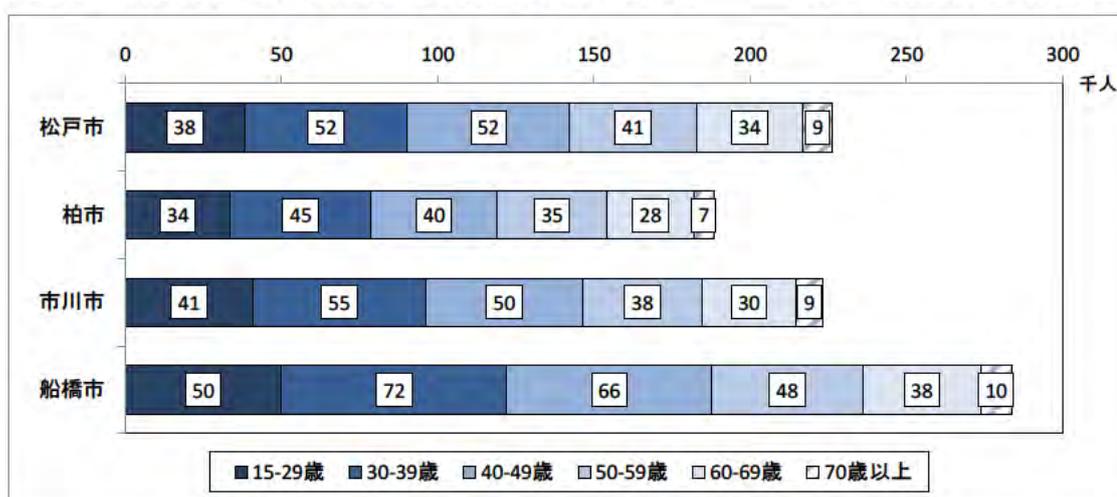
松戸市と規模に近い県内近隣3市と、就業者数、就業者の構成比率を比較してみると以下ようになる。

就業者数は人口の多寡により違いが出ているが、就業者の構成比については、松戸市の特徴として15～29歳、30歳代の比率がやや低く、60歳以上の比率がやや高い点があげられる。これを映じて松戸市の就業者の平均年齢は45.3歳と、3市よりわずかながら高くなっている（柏市：44.8歳、市川市：44.4歳、船橋市：44.3歳）。

構成比率について、松戸市を含む4市と千葉県全体とを比較すると、千葉県で50歳代が多いことが目立つ。なお県全体の就業者の平均年齢は45.4歳で、松戸市と同水準となっている。

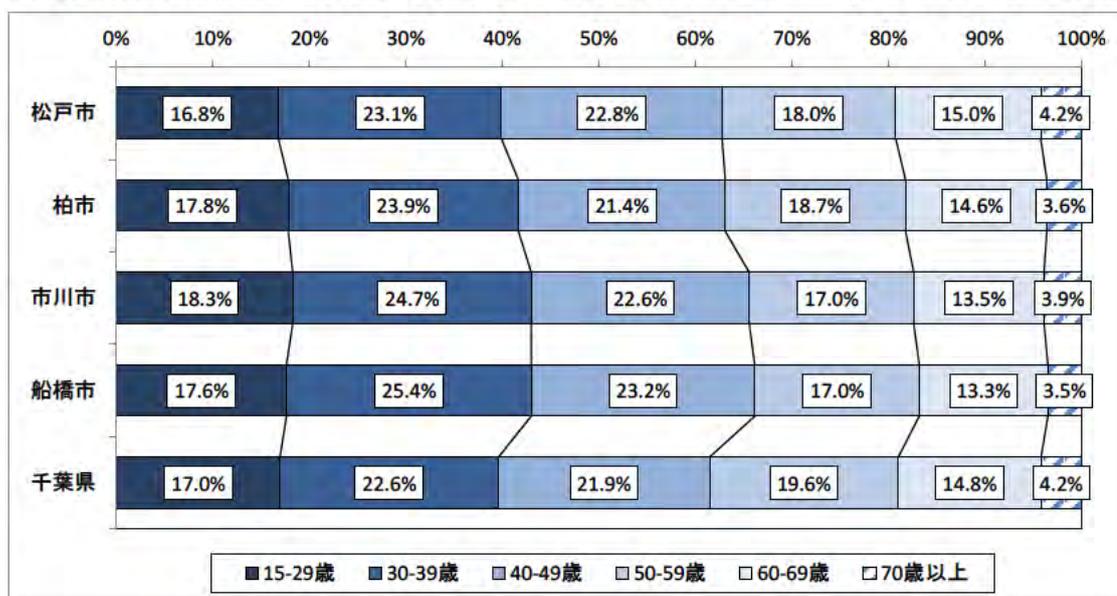
◇年齢別 近隣自治体との就業者数の比較（平成22年）

資料：国勢調査（総務省）



◇年齢別 近隣自治体との就業者の構成比の比較（平成22年）

資料：国勢調査（総務省）



④主要業種別の動向

就業者数が多い主な業種の年齢階層をみてみる。

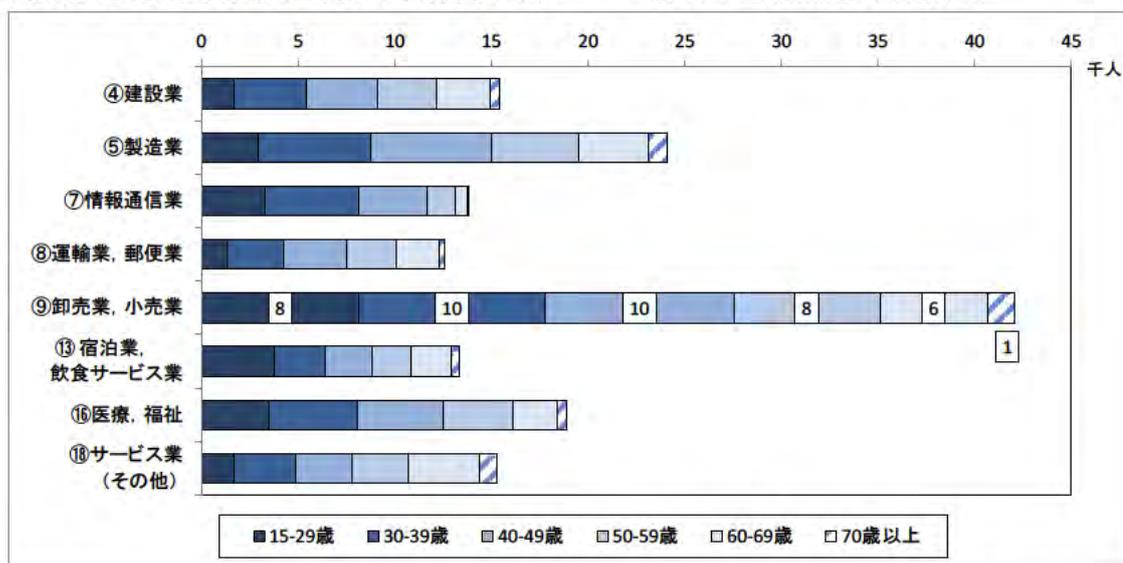
就業者が最も多い「卸売業・小売業」では、30歳代、40歳代がともに10千人前後と多い。年齢別の構成比を就業者全体のそれと比較すると15～29歳がやや高い(19.3%、就業者全体：16.8%) が、その他はほぼ近い傾向にある。

年齢階層別構成比が特徴的な業種としては「情報通信業」があげられる。同業種では相対的に若い層、特に30歳代の比率が高く、40歳未満の比率が58.7%と他業種より突出して高い。業種の平均年齢も、唯一30歳代(38.9歳)となっている。

また、「宿泊業・飲食サービス業」で若年層の比率が高いことも目立っている。

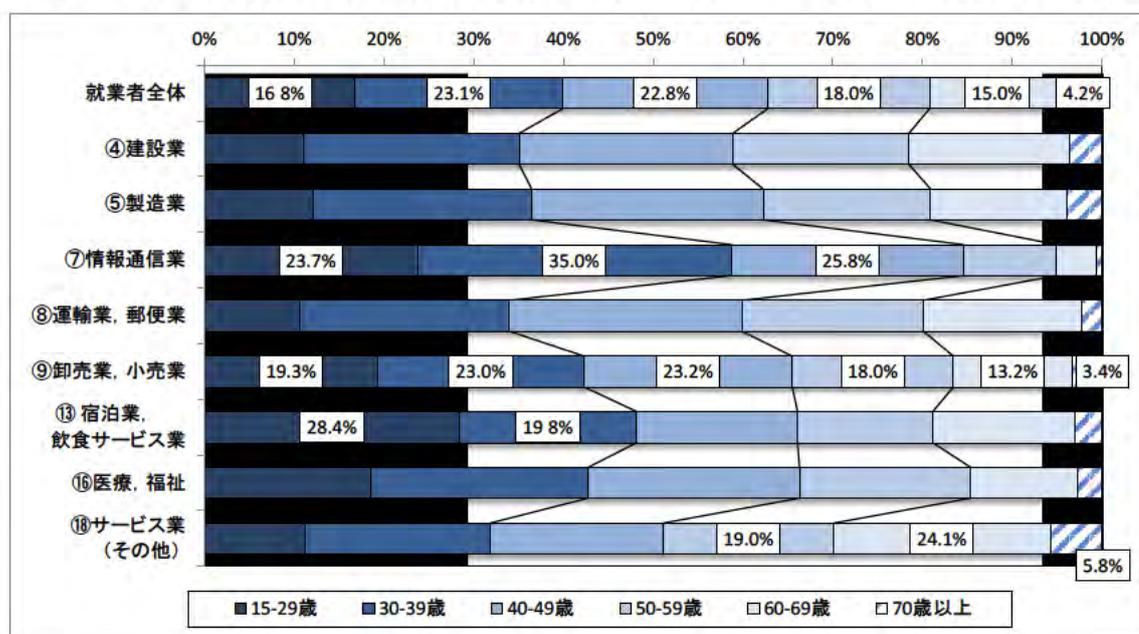
◇年齢別 主要産業の就業者数(平成22年)

資料：国勢調査(総務省)



◇年齢別 主要産業の就業者の構成比の比較(平成22年)

資料：国勢調査(総務省)



(3) 通勤・通学者の動向

平成 22 年時点で松戸市に在住する就業者・通学者は 231,366 人で、常住人口の 47.8%となっている。人口に占める就業者・通学者の比率は、近隣市でも 47~50%で、松戸市の水準は平均的だといえる。

通勤・通学先を都県別にみると、「千葉県内へ」通勤・通学している人が 127,679 人で全体の 55.2%となっている。「東京 23 区へ」の通勤・通学者が 89,758 人(同 38.8%)で、両者の合計で 94.0%を占めている。

県内への通勤・通学者を自治体別で分けて見ると、「松戸市内へ」が 85,756 人で、「東京 23 区へ」と近い数値となっている。その他では「柏市へ」(11,512 人)、「市川市へ」(6,715 人)、「船橋市へ」(4,983 人)の順で多くなっている。

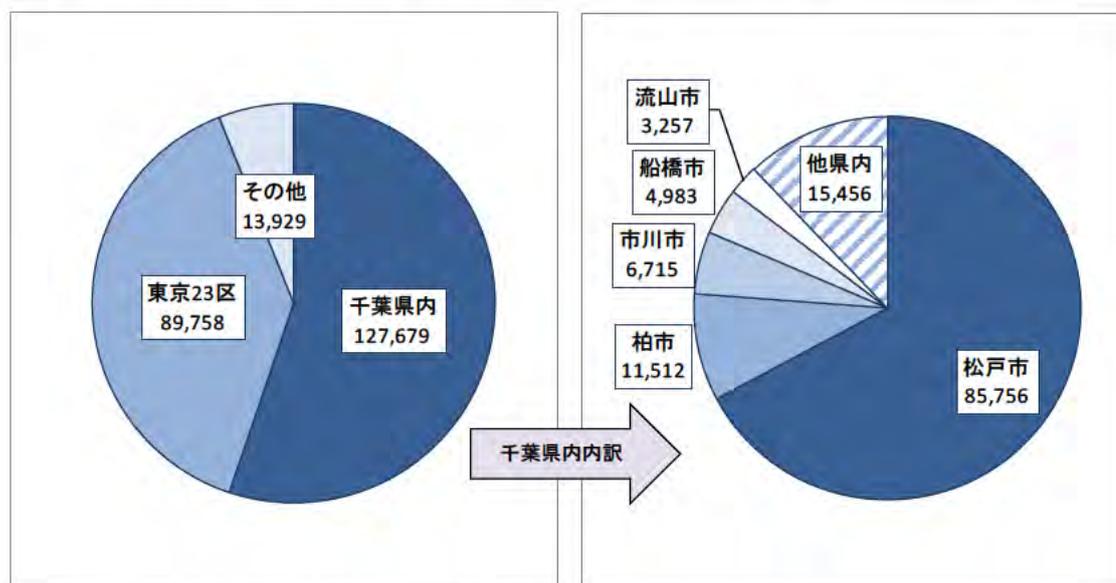
◇松戸市及び近隣市の常住人口と就業者・通学者数（平成 22 年）

資料：創生本部

	松戸市	柏市	市川市	船橋市	流山市
①常住人口	484,457	404,012	473,919	609,040	163,984
②就業者・通学者数	231,366	194,740	222,763	291,455	81,923
②/①	47.8%	48.2%	47.0%	47.9%	50.0%

◇松戸市の就業者・通学者の就業・通学先（平成 22 年）

資料：創生本部



(注)従業通学地不詳を含まない。以下の図表も同じ

「東京 23 区」の内容を更に分けて見てみると、都内の中心部で事業所等が数多く立地する千代田区、港区、中央区への通勤・通学者が特に多く、これらの 3 区の合計で、約 4 割を占めている。

◇東京 23 区への転入者の内訳（平成 22 年）

資料：創生本部

通勤・通学先	通勤・津学者数	構成比
千代田区	15,160	16.9%
港区	11,160	12.4%
中央区	10,410	11.6%
台東区	5,697	6.3%
新宿区	5,457	6.1%
江東区	5,385	6.0%
葛飾区	4,884	5.4%
足立区	4,422	4.9%
23区合計	89,758	100.0%

通勤・通学先を近隣市と比較してみると、「千葉県内へ」通勤・通学する比率は柏市、船橋市で高く（それぞれ 62.3%、60.0%）、逆に「東京都 23 区へ」通勤・通学する比率は市川市で高くなっている（49.5%）。松戸市の動向は両者の中間にある。

自市内へ通勤・通学する人の比率は、柏市が 42.4%と最も高い。松戸市は 37.1%と船橋市と同水準で、「東京 23 区へ」の比率が高い市川市では低くなっている。

◇松戸市及び近隣市の就業者・通学者の就業・通学先（平成 22 年）

資料：創生本部

	就業者・通学者数	千葉県内	松戸市へ	柏市へ	市川市へ	船橋市へ	流山市へ	東京23区へ	その他へ
松戸市	231,366	127,679	85,756	11,512	6,715	4,983	3,257	89,758	13,929
柏市	194,740	121,261	11,471	82,586	1,767	3,049	5,161	60,442	13,037
市川市	222,763	104,155	3,528	1,117	69,727	9,358	259	110,372	8,236
船橋市	291,455	175,001	3,889	2,575	13,217	105,244	408	107,080	9,374

	就業者・通学者数	千葉県内	松戸市へ	柏市へ	市川市へ	船橋市へ	流山市へ	東京23区へ	その他へ
松戸市	100.0%	55.2%	37.1%	5.0%	2.9%	2.2%	1.4%	38.8%	6.0%
柏市	100.0%	62.3%	5.9%	42.4%	0.9%	1.6%	2.7%	31.0%	6.7%
市川市	100.0%	46.8%	1.6%	0.5%	31.3%	4.2%	0.1%	49.5%	3.7%
船橋市	100.0%	60.0%	1.3%	0.9%	4.5%	36.1%	0.1%	36.7%	3.2%

(4) 昼夜間人口比率の推移

松戸市の昼夜間人口比率（注）は、平成12年：80.1⇒17年：80.8⇒22年：81.6と、少しずつではあるが上昇傾向にある。近隣市の昼夜間人口比率も、概ね上昇傾向にあり、松戸市を含め「昼間に人が市外に出る」傾向が弱まっているといえる。

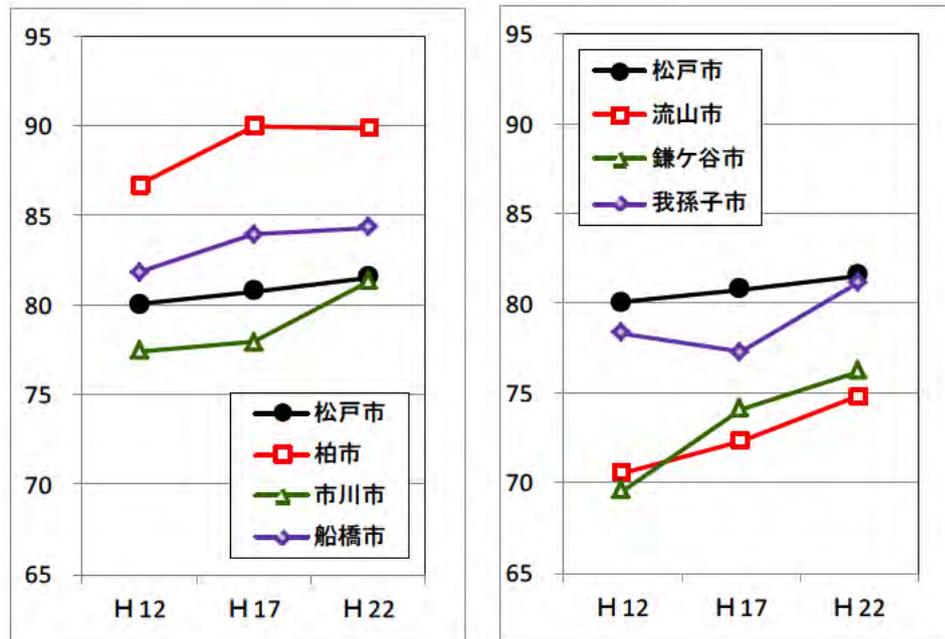
規模が近い自治体との比較では、松戸市は柏市、船橋市より低く、市川市より高くなっているが、これは東京都からの距離が近いほど昼間に東京に人が流れる傾向が強いためだと考えられる。

その他の流山市、鎌ヶ谷市、我孫子市との比較では、松戸市の比率は高い水準で推移している。東京への距離が近いにも関わらず比率が高いのは、松戸市はこれらの3市よりも相対的に拠点性が高いためだと考えられる。

なお千葉県は、その立地性から東京都のベッドタウンという性格を有しているため、昼夜間人口比率は100を下回って推移している（H12：87.7⇒H17：88.6⇒H22：89.5）。平成22年時点で県内で100を超えているのは、成田市、館山市、鴨川市、芝山町、大多喜町の5自治体のみとなっている。

◇松戸市及び近隣市の昼夜間比率の推移

資料：創生本部



(注)「昼夜間人口比率」

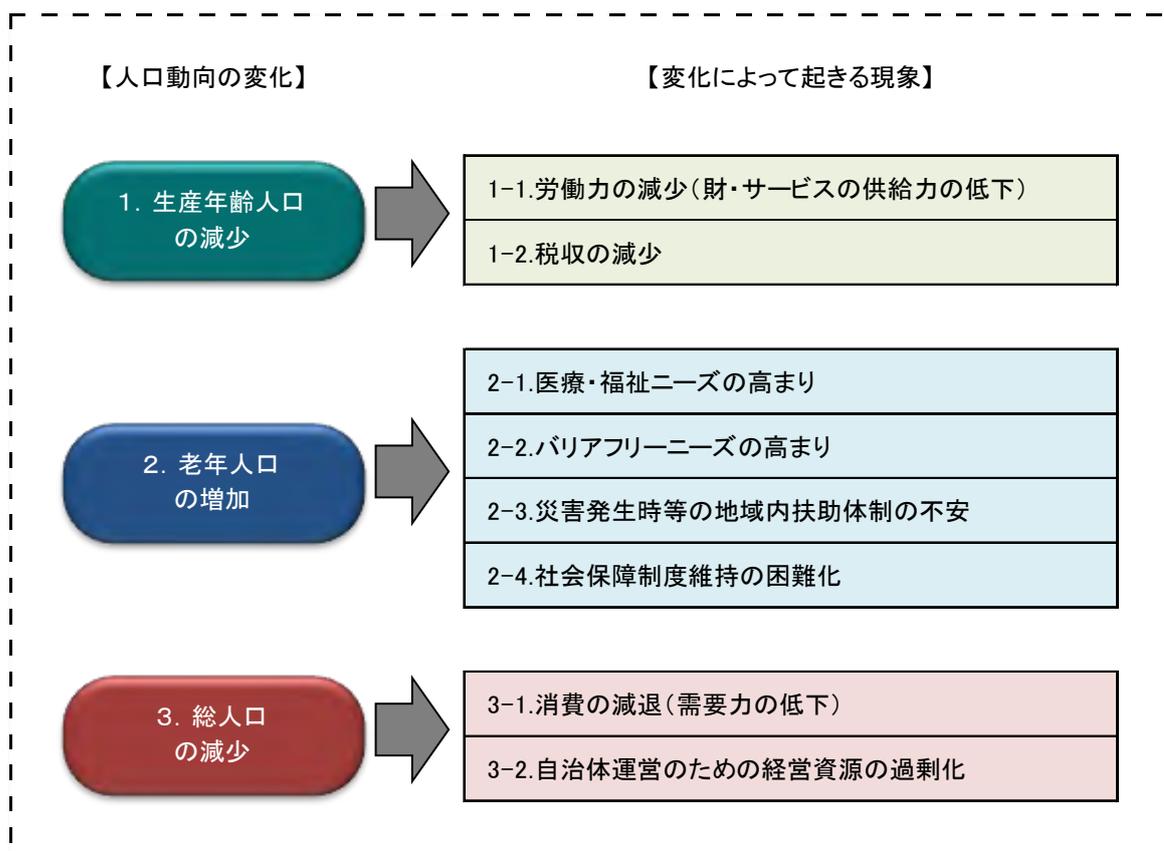
- 常住人口(夜間人口)100人当たりの昼間人口の割合。昼間に外から人を集めていると「100」を超えることとなる。一般に、周辺地域の中で相対的に拠点性が高いと昼夜間人口比率が高いとされている。

4. 今後の人口変化が及ぼす影響

出生などの諸条件が現状の傾向のまま推移した場合、今後人口の減少、年齢構成上の高齢化が進むことが予想される。

人口の減少・高齢化といった問題は、地域にさまざまな現象をもたらす。人口動向の変化と、それがもたらす主な現象をまとめると、以下ようになる。

◇「人口動向の変化」と「変化によって起きる現象」



これらの現象のすべてが、地域経済や地域社会にマイナスの影響を及ぼす要因と考えられる。ここでは、こうした現象を背景として地方行政にもたらされる影響のうち、特に重要な「自治体財政への影響」について整理する。

○自治体財政への影響

背景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2.「税収の減少」 ○ 2-1.「医療・福祉ニーズの高まり」
----	---

近年、松戸市の決算額は、国の経済対策などにより増加傾向にある。

歳入の内訳の中の「市税」は、わずかずつではあるが減少傾向をたどっており、歳入全体に占める比率も低下を続けている。税金を納める中心となる生産年齢人口の減少がその背景にある。社人研推計では、生産年齢人口は今後減少傾向を一層強めることとなり、将来的に市税収入は更に減少することが予想される。

【生産年齢人口の動向】

2010年実績値	321千人		
2015年推計値	300千人	～2010年比	△21千人、△6.5%
2020年推計値	288千人	～同	△33千人、△10.3%
2040年推計値	216千人	～同	△105千人、△32.7%
2060年推計値	158千人	～同	△163千人、△49.2%

一方、高齢化の進展を主因として、歳出の内訳である扶助費は急激に増加している。歳出額全体も増加しているが、扶助費の増加の勢いはこれを上回っており、全体に占める扶助費の構成比も上昇傾向にある。高齢者数の増加は今後も続くため、扶助費の更なる増加も見込まれている。

【老年人口の動向】

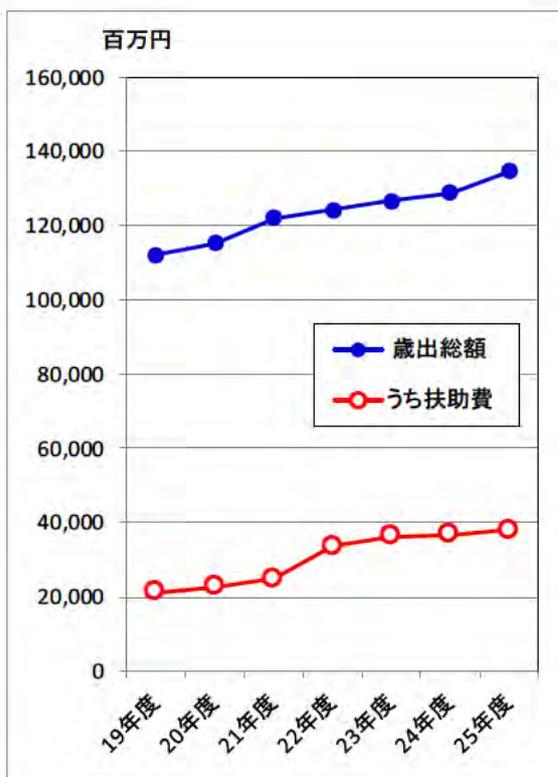
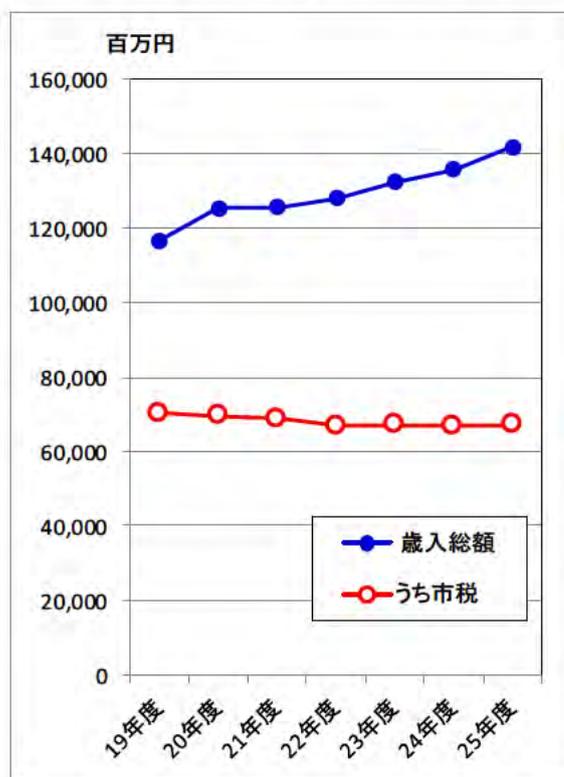
2010年実績値	104千人		
2015年推計値	129千人	～2010年比	+25千人、+24.0%
2020年推計値	140千人	～同	+36千人、+34.6%
2040年推計値	161千人	～同	+57千人、+54.8%
2060年推計値	138千人	～同	+34千人、+32.7%

* 老年人口は 2050 年をピークに減少に転じる

生産年齢人口の減少を背景とした市税の減少、そして老年人口の増加を背景とした扶助費の増加により、収入・支出両方の面で、市の財政状況は、今後一層厳しくなることが予想される。

◇歳入動向と歳出動向の推移

資料：松戸市



区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
歳入総額	116,526	125,277	125,647	127,931	132,380	135,565	141,823
うち市税	70,361	69,448	68,819	66,970	67,010	66,771	67,176
増減額	-	△ 914	△ 628	△ 1,850	40	△ 238	404
増減率	-	-1.3%	-0.9%	-2.7%	0.1%	-0.4%	0.6%
全体構成比	60.4%	55.4%	54.8%	52.3%	50.6%	49.3%	47.4%

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
歳出総額	112,189	115,312	122,085	124,278	126,696	128,817	134,499
うち扶助費	21,194	22,632	24,897	33,547	36,157	36,670	37,824
増減額	-	1,438	2,265	8,650	2,609	513	1,154
増減率	-	6.8%	10.0%	34.7%	7.8%	1.4%	3.1%
全体構成比	18.9%	19.6%	20.4%	27.0%	28.5%	28.5%	28.1%

2章 人口の将来展望

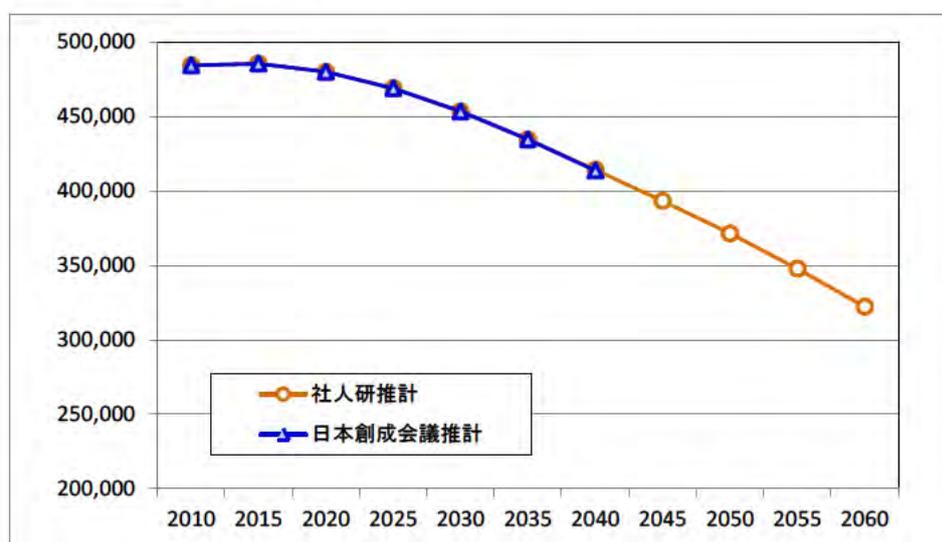
1. 将来人口の推計

松戸市の人口が、今後も現状の傾向で推移するものと想定したときの推計結果（国立社会保障・人口問題研究所～以下「社人研」、及び日本創成会議による推計）と、自然動態と社会動態に変化があったと想定したシミュレーションの結果（11 パターンの仮定をおいた時のそれぞれの結果）を以下に提示する。

(1) 各機関による既存推計結果

社人研及び民間機関である日本創成会議による、松戸市の人口推計結果をグラフにすると以下ようになる。

◇社人研・日本創成会議の推計結果 資料：社人研、日本創成会議



社人研推計は2060年まで、日本創成会議による推計は2040年までと、推計の最終年が異なるが、ほぼ同じ傾向で推移している。両者とも2015年にピークとなり（486千人）、その後は減少に転じている。2040年には414千人、2060年には322千人（社人研推計値）と、減少幅は拡大傾向を続け、2010年の人口を100とした時の指数は2040年には86、2060年には67まで落ち込む結果となっている。

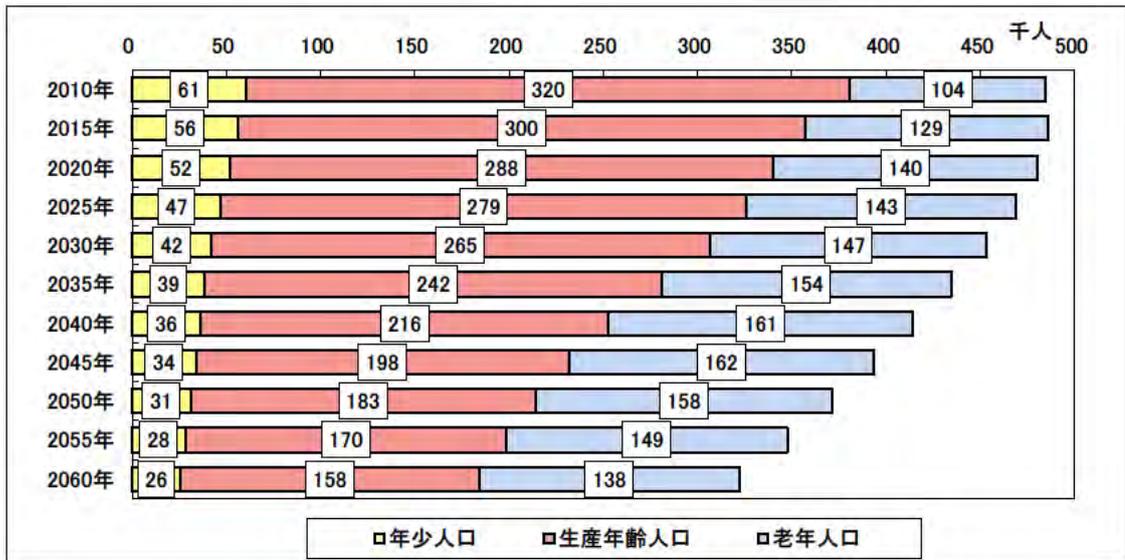
◇推計人口・増減数・増減率等の推移（社人研推計） 資料：社人研

	2010	2020	2030	2040	2050	2060
推計人口	484,457	480,129	453,364	414,284	371,503	322,325
10年間の増減数	—	-4,328	-26,765	-39,079	-42,781	-49,179
10年間の増減率	—	-0.9%	-5.6%	-8.6%	-10.3%	-13.2%
2010年を100とした指数	100	99	94	86	77	67

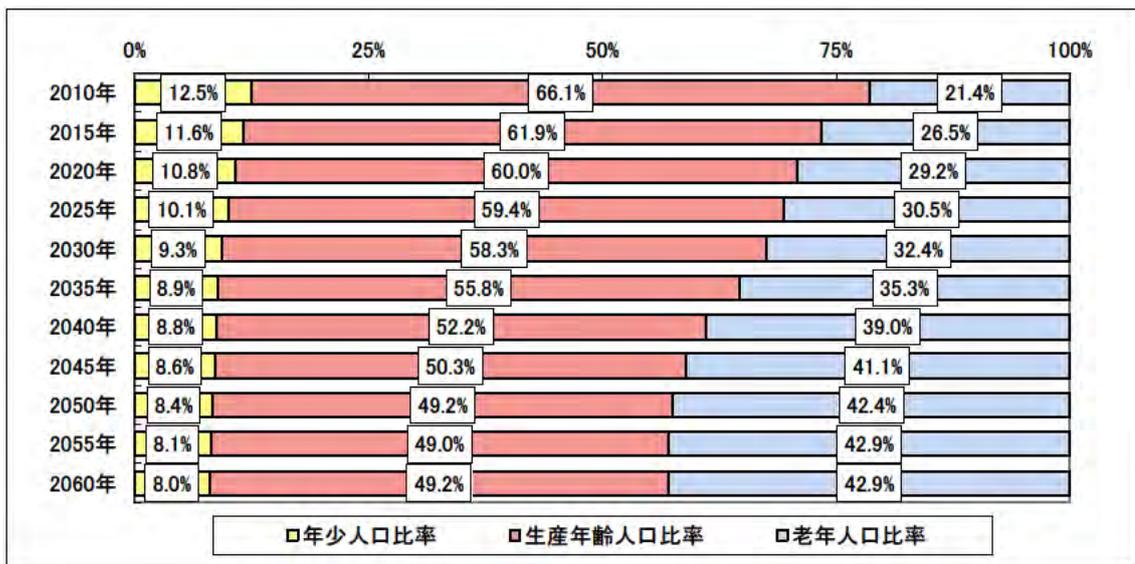
年齢階層 3 区分別にみると、生産年齢人口と年少人口は減少傾向、老年人口は増加傾向が続く。ただし、生産年齢人口の急減を映じて、老年人口も 2050 年からは減少に転じ、その結果として老年人口比率は 2055 年以降は横ばいとなっている。

なお、75 歳以上人口の比率は、2010 年の 8.4% から、2040 年は 21.6%、2060 年は 29.6% と、上昇を続けている。

◇年齢階層別人口数の推移（社人研推計） 資料：社人研



◇年齢階層別人口構成比の推移（社人研推計） 資料：社人研



(2) 市のシミュレーションによる推計結果

将来人口の動向に影響を及ぼす要因である「出生率」と「転入数」に条件を設定し、11パターンの推計、シミュレーションを実施する。

◇各種推計・シミュレーションの設定条件

		自然動態の仮定	社会動態の仮定
社人研推計		<ul style="list-style-type: none"> 出生率が以下のように推移 2020年: 1.27 2030年: 1.25 2040年: 1.25 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の趨勢を参考として社人研が独自に設定
①基本推計		<ul style="list-style-type: none"> 出生率が以下のように上昇 2020年: 1.60 2030年: 1.80 2040年: 2.07 	同上
②独自シミュレーション	②-①	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で1,000人のファミリー層が追加で転入
	②-②	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で2,000人のファミリー層が追加で転入
	②-③	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で3,000人のファミリー層が追加で転入
	②-④	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で4,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑤	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で5,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑥	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で6,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑦	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で7,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑧	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、年で8,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑨	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で9,000人のファミリー層が追加で転入
	②-⑩	同上	<ul style="list-style-type: none"> 上記を基準に、5年で10,000人のファミリー層が追加で転入

①基本推計 ～出生率上昇のみを考慮

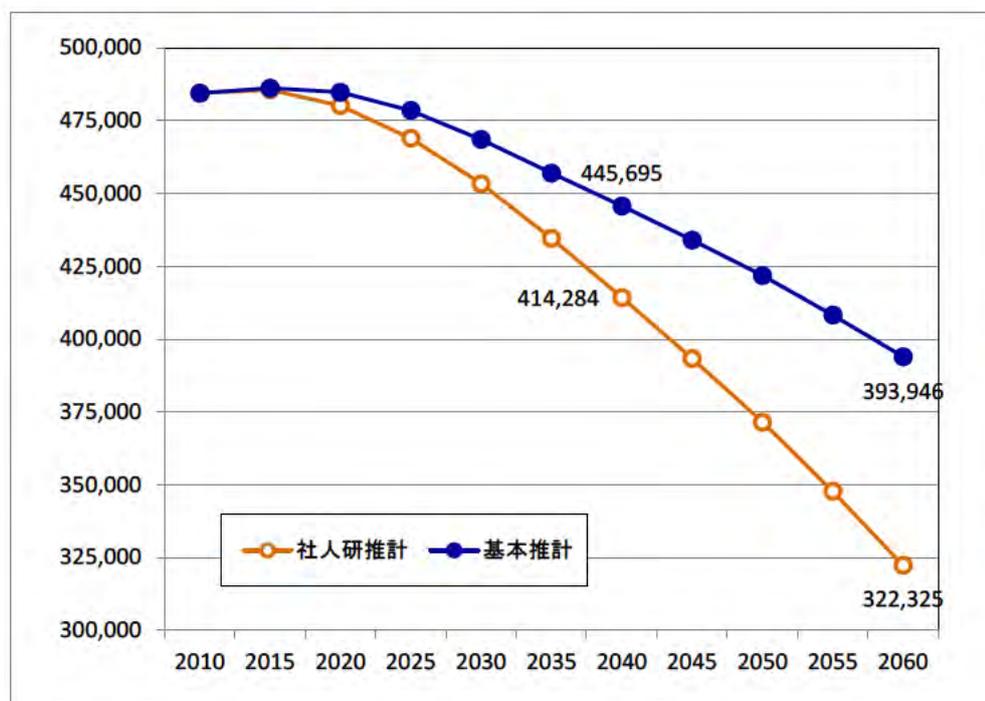
国が「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」にて掲げている出生率（2020年：1.6 ⇒ 2030年：1.8 ⇒ 2040年：2.07）が実現された場合の推計を、松戸市の「基本推計」とする（松戸市の合計特殊出生率は、今後この水準まで上昇するものと仮定する）。なお、この「基本推計」では、社会動態は社人研で設定した条件のまま推移するものとする。

【推計結果】

「基本推計」では、松戸市の人口は2040年に446千人、2060年に394千人となった。人口数はやはり減少傾向をたどるものの、減少幅は社人研推計と比較すると大幅に縮小している。その差は2040年で31千人、2060年で72千人となっており、上記の幅の出生率上昇が、人口の増減にこれだけの大きな影響を与えていることがわかる。

◇「基本推計」の推計結果

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
基本推計 人口数	484,457	484,758	468,568	445,695	421,807	393,946
10年間の人口増減数	—	301	△ 16,190	△ 22,874	△ 23,887	△ 27,861
10年間の人口増減率	—	0.1%	-3.3%	-4.9%	-5.4%	-6.6%
(参考) 社人研推計	484,457	480,129	453,364	414,284	371,503	322,325



②独自シミュレーション ～出生率上昇に加えファミリー層の転入増加を考慮

ファミリー層の転入による社会増を織り込んだシミュレーションの結果は以下のとおり。

◇「独自シミュレーション」の推計結果

	2010	2015	2020	2025	2030	2040	2060
基本推計	484,457	486,163	484,758	478,523	468,568	445,695	393,946
シミュレーション1	484,457	486,163	485,832	480,755	472,056	451,985	406,700
シミュレーション2	484,457	486,163	486,907	482,987	475,544	458,275	419,454
シミュレーション3	484,457	486,163	487,981	485,218	479,032	464,565	432,207
シミュレーション4	484,457	486,163	489,055	487,450	482,520	470,856	444,961
シミュレーション5	484,457	486,163	490,129	489,682	486,008	477,146	457,715
シミュレーション6	484,457	486,163	491,203	491,914	489,496	483,436	470,468
シミュレーション7	484,457	486,163	492,277	494,145	492,984	489,727	483,222
シミュレーション8	484,457	486,163	493,352	496,377	496,472	496,017	495,975
シミュレーション9	484,457	486,163	494,426	498,609	499,960	502,307	508,729
シミュレーション10	484,457	486,163	495,500	500,840	503,448	508,598	521,483

	2010⇒2040年		2010⇒2060年	
	増減数	増減率	増減数	増減率
基本推計	△ 38,762	-8.0%	△ 90,511	-18.7%
シミュレーション1	△ 32,472	-6.7%	△ 77,757	-16.1%
シミュレーション2	△ 26,182	-5.4%	△ 65,003	-13.4%
シミュレーション3	△ 19,892	-4.1%	△ 52,250	-10.8%
シミュレーション4	△ 13,601	-2.8%	△ 39,496	-8.2%
シミュレーション5	△ 7,311	-1.5%	△ 26,742	-5.5%
シミュレーション6	△ 1,021	-0.2%	△ 13,989	-2.9%
シミュレーション7	5,270	1.1%	△ 1,235	-0.3%
シミュレーション8	11,560	2.4%	11,518	2.4%
シミュレーション9	17,850	3.7%	24,272	5.0%
シミュレーション10	24,141	5.0%	37,026	7.6%

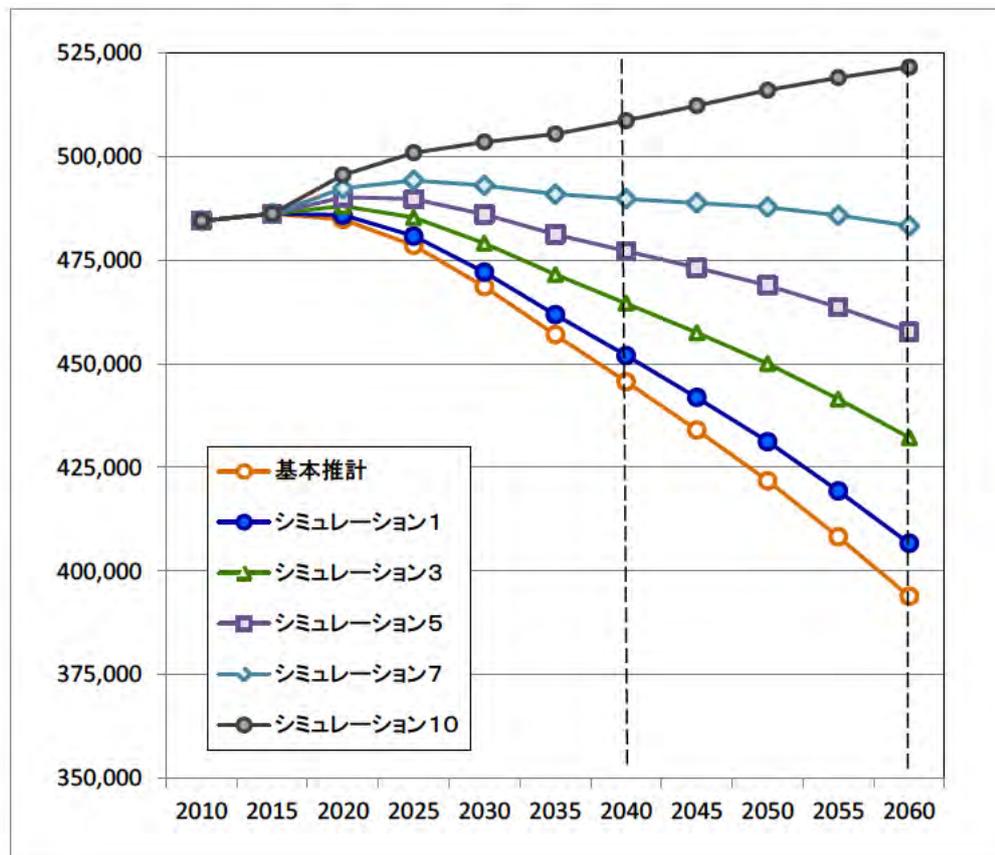
【推計結果】

それぞれのシミュレーション結果をみると、当然のことながら転入数が増加するほど人口推移の曲線は上方に移動している。

2010年(484千人)を基準とすると、2040年にはシミュレーション1で32千人、シミュレーション3で20千人、シミュレーション5で7千人、それぞれ減少となるが、シミュレーション10では24千人増加する。同じく2060年には、それぞれ78千人減、52千人減、27千人減、37千人増となる。

2040年に2010年とほぼ同水準の人口を維持できる推計はシミュレーション6で、今後5年ごとに6,000人の転入(現状の転入数とは別に)を見込む場合となる。また、2060年にほぼ同水準を維持できる推計はシミュレーション7あるいは8で、同じく5年ごとに7,000人~8,000人の転入を見込む場合となる。

◇基本推計・独自シミュレーション(主なもの)の推移



社人研推計と比較して、基本推計・それぞれのシミュレーションによる人口増減の動向がどの程度であるかをみてる。

基本推計では、社人研推計より 2040 年で+7.6%、2060 年で+22.2%となっている。基本推計は出生率のみを調整させているため、これらはすべて「出生率上昇による寄与」だといえる。

今後 5 年間ごとに 1,000 人の転入を想定しているシミュレーション1では、人口は 2040 年に+9.1%、2060 年には+26.2%となる。このうち、「出生率上昇による寄与」分を除く、「転入数増加による寄与」分は差し引きの 1.5%、4.0%となる。シミュレーション1では、社人研推計からの増加分のうちかなりの部分が出生率上昇による効果から生じていることがわかる。

同様にみていくと、シミュレーション5で「出生率上昇による寄与度」と「転入数増加による寄与度」がほぼ同じ水準に達し、シミュレーション6以上になると、「転入増加による寄与度」の方が高くなる。

◇各種推計・独自シミュレーション（主なもの）の寄与度の整理

○社人研推計

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	480,129	453,364	414,284	371,503	322,325

○基本推計

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	484,758	468,568	445,695	421,807	393,946
社人研推計比増減数	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
社人研推計比増減率	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%

○シミュレーション1

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	485,832	472,056	451,985	431,220	406,700
社人研推計比増減数	0	5,703	18,692	37,700	59,717	84,375
社人研推計比増減率	0.0%	1.2%	4.1%	9.1%	16.1%	26.2%
うち出生率上昇による寄与度	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%
うち転入数増加による寄与度	0.0%	0.2%	0.8%	1.5%	2.5%	4.0%
(出生率上昇による人口増加数)	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
(転入数増加による人口増加数)	0	1,074	3,488	6,290	9,413	12,754

○シミュレーション3

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	487,981	479,032	464,565	450,046	432,207
社人研推計比増減数	0	7,852	25,668	50,281	78,542	109,883
社人研推計比増減率	0.0%	1.6%	5.7%	12.1%	21.1%	34.1%
うち出生率上昇による寄与度	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%
うち転入数増加による寄与度	0.0%	0.7%	2.3%	4.6%	7.6%	11.9%
(出生数上昇による人口増加数)	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
(転入数増加による人口増加数)	0	3,222	10,464	18,871	28,239	38,261

○シミュレーション5

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	490,129	486,008	477,146	468,872	457,715
社人研推計比増減数	0	10,000	32,644	62,862	97,368	135,390
社人研推計比増減率	0.0%	2.1%	7.2%	15.2%	26.2%	42.0%
うち出生率上昇による寄与度	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%
うち転入数増加による寄与度	0.0%	1.1%	3.8%	7.6%	12.7%	19.8%
(出生数上昇による人口増加数)	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
(転入数増加による人口増加数)	0	5,371	17,440	31,452	47,064	63,768

○シミュレーション7

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	492,277	492,984	489,727	487,697	483,222
社人研推計比増減数	0	12,148	39,620	75,442	116,194	160,897
社人研推計比増減率	0.0%	2.5%	8.7%	18.2%	31.3%	49.9%
うち出生率上昇による寄与度	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%
うち転入数増加による寄与度	0.0%	1.6%	5.4%	10.6%	17.7%	27.7%
(出生数上昇による人口増加数)	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
(転入数増加による人口増加数)	0	7,519	24,416	44,032	65,890	89,275

○シミュレーション10

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
人口推移	484,457	495,500	503,448	508,598	515,936	521,483
社人研推計比増減数	0	15,371	50,084	94,313	144,432	199,158
社人研推計比増減率	0.0%	3.2%	11.0%	22.8%	38.9%	61.8%
うち出生率上昇による寄与度	0.0%	1.0%	3.4%	7.6%	13.5%	22.2%
うち転入数増加による寄与度	0.0%	2.2%	7.7%	15.2%	25.3%	39.6%
(出生数上昇による人口増加数)	0	4,629	15,204	31,410	50,304	71,622
(転入数増加による人口増加数)	0	10,741	34,879	62,903	94,129	127,536

③年齢階層別人口構造の分析

各推計・シミュレーションにおける人口3区分別、及び75歳以上の人口数及び全体に占める構成比率は以下のとおり。

◇各種推計及び独自シミュレーション（主なもの）の年齢3区分別人口・構成比率

○社人研推計

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	36,477	25,725
生産年齢人口	320,016	216,412	158,472
老年人口	103,684	161,395	138,128
75歳以上人口	40,721	89,369	95,448

	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	8.8%	8.0%
生産年齢人口比率	66.1%	52.2%	49.2%
老年人口比率	21.4%	39.0%	42.9%
75歳以上人口比率	8.4%	21.6%	29.6%

○基本推計

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	58,243	55,363
生産年齢人口	320,016	226,056	200,456
老年人口	103,684	161,395	138,128
75歳以上人口	40,721	89,369	95,448

	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	13.1%	14.1%
生産年齢人口比率	66.1%	50.7%	50.9%
老年人口比率	21.4%	36.2%	35.1%
75歳以上人口比率	8.4%	20.1%	24.2%

○シミュレーション1

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	59,669	57,916
生産年齢人口	320,016	230,735	208,639
老年人口	103,684	161,581	140,145
75歳以上人口	40,721	89,369	96,375

	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	13.2%	14.2%
生産年齢人口比率	66.1%	51.0%	51.3%
老年人口比率	21.4%	35.7%	34.5%
75歳以上人口比率	8.4%	19.8%	23.7%

○シミュレーション3

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	62,521	63,023
生産年齢人口	320,016	240,092	225,007
老年人口	103,684	161,952	144,178
75歳以上人口	40,721	89,369	98,227

	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	13.5%	14.6%
生産年齢人口比率	66.1%	51.7%	52.1%
老年人口比率	21.4%	34.9%	33.4%
75歳以上人口比率	8.4%	19.2%	22.7%

○シミュレーション5

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	65,373	68,129
生産年齢人口	320,016	249,450	241,374
老年人口	103,684	162,324	148,212
75歳以上人口	40,721	89,369	100,080

	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	13.7%	14.9%
生産年齢人口比率	66.1%	52.3%	52.7%
老年人口比率	21.4%	34.0%	32.4%
75歳以上人口比率	8.4%	18.7%	21.9%

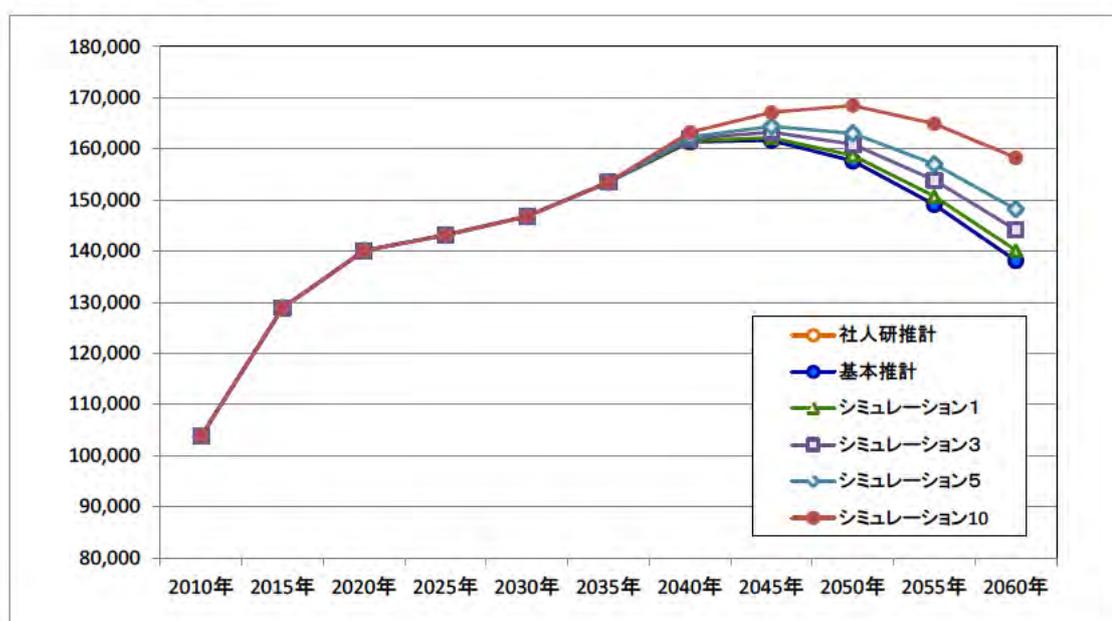
○シミュレーション10

	2010年	2040年	2060年
年少人口	60,757	72,502	80,894
生産年齢人口	320,016	272,844	282,292
老年人口	103,684	163,252	158,296
75歳以上人口	40,721	89,369	104,711

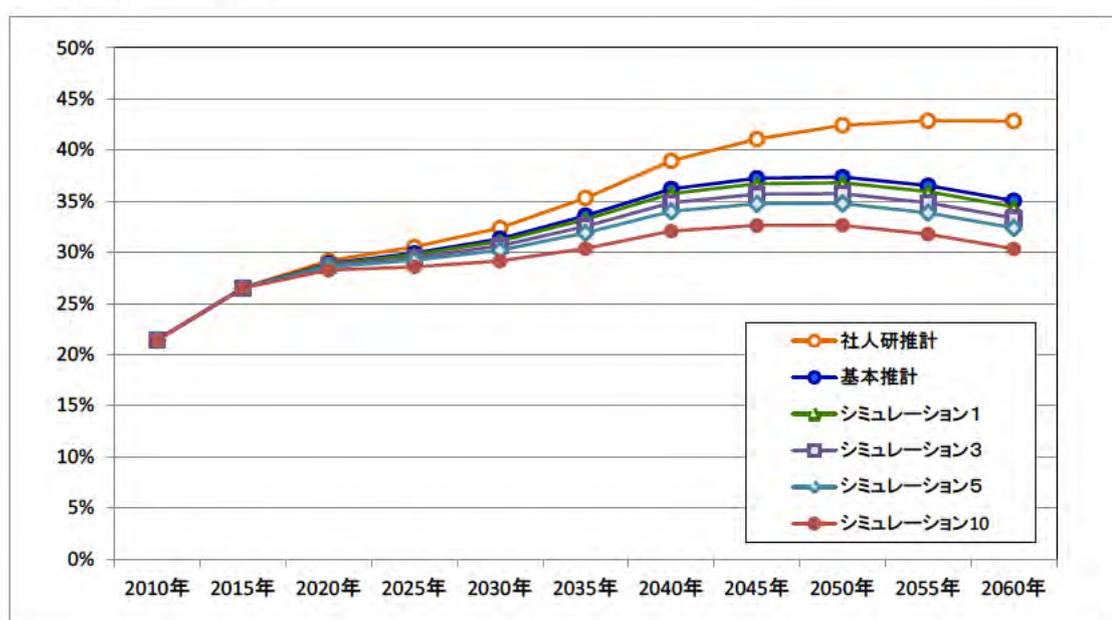
	2010年	2040年	2060年
年少人口比率	12.5%	14.3%	15.5%
生産年齢人口比率	66.1%	53.6%	54.1%
老年人口比率	21.4%	32.1%	30.4%
75歳以上人口比率	8.4%	17.6%	20.1%

このうち、老年人口比率（＝高齢化率）、75歳以上人口比率の動向をみると、社人研推計と、出生率上昇を想定した基本推計及び各シミュレーションとの間で、きわめて大きな違いがあることがわかる。両者の差異は年を経るごとに広がっていき、2060年の高齢化率は、社人研推計では42.9%に達するのに対し、基本推計では35.1%にとどまる結果となっている。高齢化率の抑制のためには、出生率の上昇が大きく寄与することがみてとれる。

◇老年人口数の推移



◇老年人口比率の推移



2. 目指すべき将来人口の展望

(1) 現状の整理と将来への可能性

松戸市の将来人口を展望していくにあたっては、人口動向の現状を的確に把握し、それを前提として、考察を進めていく必要がある。

1章でみてきた「人口動向の分析」の結果から、以下の6つの切り口ごとに「これまでの推移」「その背景」「課題」「松戸市の強みと将来への可能性」という点について整理する。

①自然動態の動向

これまでの推移	○出生数は減少、死亡数は増加 ・「出生数-死亡数」で算出される「自然増減数」 H21年: +1,011人 ⇒ H26年: △11人(死亡数>出生数へ)
背景	○未婚化・晩婚化の進展 ⇒ 合計特殊出生率の低下 ⇒ 出生数の減少 ・出産対象年齢層である若年層の減少も、出生数減少の要因に ・ただし松戸市の出走率は近年上昇傾向。また東京都を大きく上回っている ○高齢化の進展 ⇒ 死亡数の増加
課題	○未婚化・晩婚化は、若年層が「出産・子育てがしにくい社会」だと認識しているため ・実際にそれぞれの場面で様々な課題が指摘されている ⇒ 対策が必要 ○高齢化(老年人口の増加)は構造的な問題 ⇒ 当面は修復不可能
市の強みと将来への可能性	◎松戸市は「都心に近いため、子どもを産み・育てながら就業もしやすいまち」 ⇒各種施策を講じることにより、出生率上昇につなげていけるはず

②社会動態の動向

これまでの推移	○H17～22年の5年間は、8千人超の転入超過 ○H23年に発生した東日本大震災の影響もあり、23、24年と2千人超の転出超過へ ○H25年以降回復基調。26年には1千人超の転入超過へ
背景	○震災による影響も含む転入減少・転出増加
課題	○(震災による影響も含む)H17～22年頃の転入超過傾向の弱まり
市の強みと将来への可能性	◎松戸市は、東京都に隣接しているという有利な立地優位性を有する ・H17～22年の動向をみても、 基本的には転入超過自治体としての位置づけにあるはず

③年齢階層別人口数の動向

これまでの推移	○年少人口・生産年齢人口の減少、老年人口の増加が続く ～高齢化率 S55年:4.8% ⇒ 30年後のH22年:21.4%
背景	○未婚化・晩婚化による少子化の進行 ○人口構成上の高齢化、特に団塊世代(S47～49年生)の老年人口入りの影響
課題	○「今後の人口変化が及ぼす影響」図表を参照
市の強みと将来への可能性	◎立地優位性より、ファミリー層、若年層が現在以上に転入してくる潜在的可能性 ⇒ファミリー層、若年層の転入増加により、 相対的にみた高齢者の比率の減少(＝高齢化率の低下)が期待できる

④年齢階層別 人口移動の動向

これまでの推移	○年齢別では15～19歳⇒20～24歳の間で転入超過幅が大、 30～34歳⇒35～39歳、0～4歳⇒5～9歳等の間で転出超過幅が大 ○近年、50～70歳代で転入超過幅が拡大
背景	○東京近郊に立地していることによる、就学・就職時点での転入傾向 ○ファミリー層における転出傾向 ○リタイア層の市内への転入の増加
課題 (特徴)	【松戸、柏、市川、船橋の4市での比較】 ○若年層は転入超過ではあるが、その幅は船橋市や市川市を大きく下回る ○ファミリー層は、船橋市と柏市は転入超過だが、松戸市、市川市は転出超過 ○50～70歳代の転入超過は、松戸市と市川市のみでの傾向
市の強みと将来への可能性	◎若年層の転入超過基調は、今後も期待できる ◎現在ファミリー層は転出超過だが、 立地的優位性から考えて、転入超過に転換していくことは十分に可能

⑤転入元・転出先別 人口移動の動向

これまでの推移	○H25年は、対千葉県内他自治体で624人の転出超過 対東京都、神奈川県、埼玉県でも転出超過で、対他道府県では転入超過 ○対県内の中では、対柏市、対流山市で大きな転出超過(△642人、△262人) 逆に対市川市では223人の転入超過
背景	○TX沿線地区(柏市、流山市)で供給された住宅への転出 ・松戸市全体で731人の転出超過であり、2市を除けば173人の転入超過
課題	○TX沿線地区への転出傾向の強さ
市の強みと将来への可能性	◎TX沿線地区への転出は一時的な傾向で、近いうちに沈静化するはず ⇒ 柏市、流山市への転出が一段落すれば、 ファミリー層の転入超過への転換が期待できる

⑥通勤・通学の動向

これまでの推移 (H22時点)	○市内に在住する就業者・通学者の通勤・通学先 ～県内: 55.2%、都内23区内: 38.8% ○県内55.2%のうち、「松戸市内へ就業・就学」が37.1% ○松戸市の昼夜間人口比率は81.6(H22年)。近年は徐々に上昇傾向
背景	○松戸市は東京のベッドタウンとしての役割を担っている ⇒ 都内就業者が多く、昼夜間人口比率も100を下回る
課題 (特徴)	【松戸、柏、市川、船橋の4市での比較】 ○東京23区への通勤・通学者の比率は、市川市より低く、船橋市・柏市より高い ○昼夜間人口比率は市川市より高く、船橋市、柏市より低い ⇒ 松戸市の通勤・通学動向は、市川市と、船橋市・柏市の間隔的な立ち位置
市の強みと将来への可能性	◎同じく都内と隣接する立地にある市川市と比較して、都内通勤者が少ない ⇒ 更に多くの都内通勤者が居住する可能性を有しているはず

■「将来への可能性」に関するポイントの整理

1. 各種施策を講じることにより、出生率上昇の可能性はある (①)
2. 立地的優位性から、特にファミリー層の転入を増加できる可能性はある
 - ・震災後に一時的な転出超過も、基本的には転入超過傾向 (②)
 - ・T×沿線地区への転出が一段落する方向～転出抑制要因 (⑤)
 - ・立地が類似している市川市より都内への通勤比率が低く、潜在的に都内通勤者世帯を更に呼び込める余地はある (⑥)
3. 立地的優位性から、現状水準の若年層の転入は今後も期待できる (④)
4. 高齢化率の上昇を抑制できる可能性はある
 - ・ファミリー層、若年層の転入増加で、相対的に高齢化率が低下 (③)

⇒総合的に判断して、社人研推計等で想定されている今後の人口減少を抑制していける可能性は十分にある

■目指すべき将来の方向

松戸の持つ魅力、潜在能力をフル活用し、良好な居住環境の整備、経済の活性化により、人口規模を維持していく。

- ・東京近郊でありながら、地方と同水準の出生率
- ・健康寿命の延伸を図り、高齢者も安心して暮らすことができるまちに

(2) 将来人口の展望

■基本的な考え方

前ページで整理したとおり、松戸市では、市が持っている高いポテンシャルを背景として今後、①「出生率の上昇」、②「転入数の増加」、③「若年層の転入傾向の維持」の3点を実現できる可能性は高く、またその結果として、④「高齢化率上昇の抑制」も期待できる。

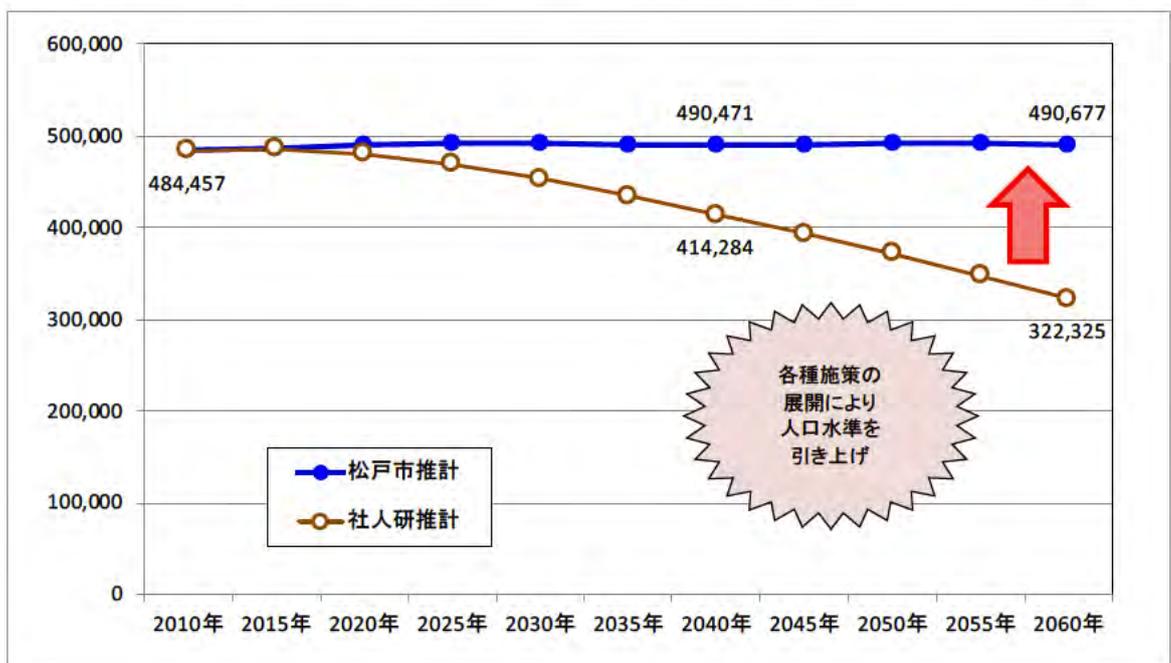
社人研による推計は、過去の出生率、移動率などを前提としたものであり、今後松戸市が「出生率の上昇」と「転入の促進」、「若年層の転入傾向の維持」に向けた的確な施策を展開していくことにより、これを上回る将来人口を達成することは十分に可能だといえる。

■将来人口の展望

2060年まで、現在の水準である50万人程度を維持

松戸市の持続的な発展を目的として、本人口ビジョンの目標年度である2060年まで、地域における活力の源泉である人口数を、現在の水準である50万人程度で維持。あわせて昼夜間人口比率85%を展望する。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
①松戸市推計	484,457	486,163	490,725	491,965	491,238	490,277	490,471	491,441	490,677
②社人研推計	484,457	485,613	480,129	468,969	453,364	434,565	414,284	371,503	322,325
①-②	0	550	10,595	22,997	37,874	55,712	76,186	119,938	168,352



■各種人口変動要因における仮定の設定

今回の将来人口を展望するための推計（以下「松戸市推計」とする）にあたっては、社人研推計をベースとして、今後の出生率、転入数、若年層の移動率の3項目について、以下のような仮定を設定した。

分類	項目	方向性	具体的な仮定の設定
自然動態	①出生率	上昇	【社人研推計】 ・将来にわたって、1.25前後で推移 【松戸市推計】 ～国に準拠 ・2015年：1.34 ⇒ 2020年：1.60 ⇒ 2030年：1.80 ⇒2040年：2.07 ⇒ 以降は2.07で推移
社会動態	②転入数	増加	【社人研推計】 ・独自で算出した移動率を適用 【松戸市推計】 ・上記移動率を前提に、追加で以下のファミリー層の転入を仮定 ・2015－2020年：5年間で5,000人 ・2020－2025年：5年間で6,000人 ・2025－2030年：5年間で7,000人 ・2030－2060年：5年ごとに7,500人
	③若年層の移動率	維持 (横ばい)	【社人研推計】 ・10-14歳⇒15-19歳、15-19歳⇒20-24歳の移動率が徐々に低下していくものと仮定 【松戸市推計】 ・上記年齢階層の移動率が2010-2015年の水準のまま横ばいで推移すると仮定

①出生率

- ・国の人口ビジョンで掲げている出生率の推移の仮定をそのまま使用した。
- ・なお、この出生率で推移すると、日本の人口は2060年に1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移すると推計されている。

②転入数

- ・松戸市は、立地面での優位性から転入者を呼び込める潜在的なポテンシャルは高い。特にファミリー層は現状転出超過となっており、これを転換していける余地は十分にある。
- ・住宅施策を積極的に展開し、市内の利便性が高い立地に大量の受け皿を供給していくことにより、上記のように徐々に転入数の増加が見込まれるものと仮定した。

③若年層の移動率

- ・松戸市では男女とも10-14歳⇒15-19歳、15-19歳⇒20-24歳の若年層では転入超過となっている。社人研推計では、将来この転入超過率が徐々に縮小していくという仮定を置いている。
- ・しかし若年層で転入超過幅が大きいことは、過去からの継続的な傾向であることから、本推計ではこの年齢層の10-15年の移動率（転入超過率）が15-20年以降も続くものと仮定した。

【結果表】

○「松戸市推計」と「社人研推計」の比較・寄与度等

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
松戸市推計	484,457	486,163	490,725	491,965	491,238	490,277	490,471	491,441	490,677
社人研推計	484,457	485,613	480,129	468,969	453,364	434,565	414,284	371,503	322,325
社人研推計比増減数	—	550	10,595	22,997	37,874	55,712	76,186	119,938	168,352
うち出生率上昇効果	—	550	4,629	9,554	15,204	22,423	31,410	50,304	71,622
うち社会動態効果	—	0	5,966	13,442	22,670	33,289	44,776	69,634	96,730
社人研推計比増減率	—	0.1%	2.2%	4.9%	8.4%	12.8%	18.4%	32.3%	52.2%
出生率上昇寄与度	—	0.1%	1.0%	2.0%	3.4%	5.2%	7.6%	13.5%	22.2%
社会動態寄与度	—	0.0%	1.2%	2.9%	5.0%	7.7%	10.8%	18.7%	30.0%

○「松戸市推計」の年齢3区分別人口数

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
年少人口	60,757	56,918	58,467	60,385	62,405	64,685	68,592	73,082	74,835
生産年齢人口	320,016	300,355	292,160	288,426	282,024	272,092	259,555	254,555	264,685
老年人口	103,684	128,891	140,098	143,154	146,809	153,500	162,324	163,804	151,157
(75歳以上人口)	40,721	56,274	73,445	88,993	92,097	89,035	89,369	103,860	100,743

○「松戸市推計」の年齢3区分別人口比率

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
年少人口比率	12.5%	11.7%	11.9%	12.3%	12.7%	13.2%	14.0%	14.9%	15.3%
生産年齢人口比率	66.1%	61.8%	59.5%	58.6%	57.4%	55.5%	52.9%	51.8%	53.9%
老年人口比率	21.4%	26.5%	28.5%	29.1%	29.9%	31.3%	33.1%	33.3%	30.8%
(75歳以上人口比率)	8.4%	11.6%	15.0%	18.1%	18.7%	18.2%	18.2%	21.1%	20.5%

(参考)「社人研推計」の年齢3区分別人口数

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
年少人口	60,757	56,368	51,921	47,163	42,033	38,793	36,477	31,156	25,725
生産年齢人口	320,016	300,355	288,110	278,651	264,522	242,272	216,412	182,700	158,472
老年人口	103,684	128,891	140,098	143,154	146,809	153,500	161,395	157,648	138,128
(75歳以上人口)	40,721	56,274	73,445	88,993	92,097	89,035	89,369	103,008	95,448

(参考)「社人研推計」の年齢3区分別人口比率

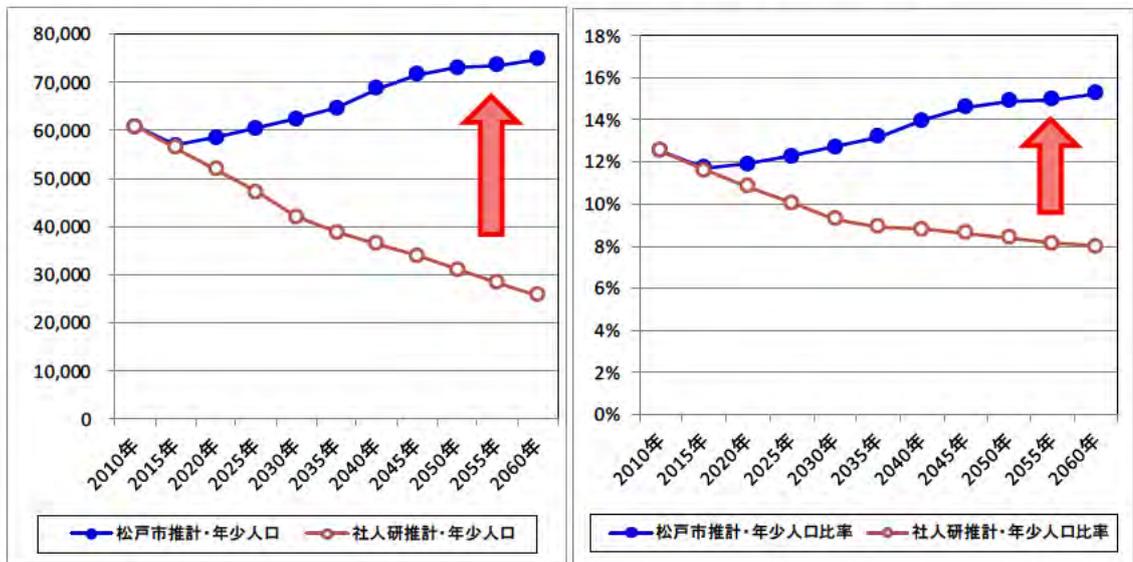
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2050年	2060年
年少人口比率	12.5%	11.6%	10.8%	10.1%	9.3%	8.9%	8.8%	8.4%	8.0%
生産年齢人口比率	66.1%	61.9%	60.0%	59.4%	58.3%	55.8%	52.2%	49.2%	49.2%
老年人口比率	21.4%	26.5%	29.2%	30.5%	32.4%	35.3%	39.0%	42.4%	42.9%
(75歳以上人口比率)	8.4%	11.6%	15.3%	19.0%	20.3%	20.5%	21.6%	27.7%	29.6%

今回の松戸市推計では、社人研推計比で2060年には168千人の増加、比率では52.2%の上昇となった。内訳をみると、出生率上昇効果が+72千人（寄与度22.2%）、転入数増加と若年層移動率維持の社会動態効果が+97千人（寄与度30.0%）となっている。

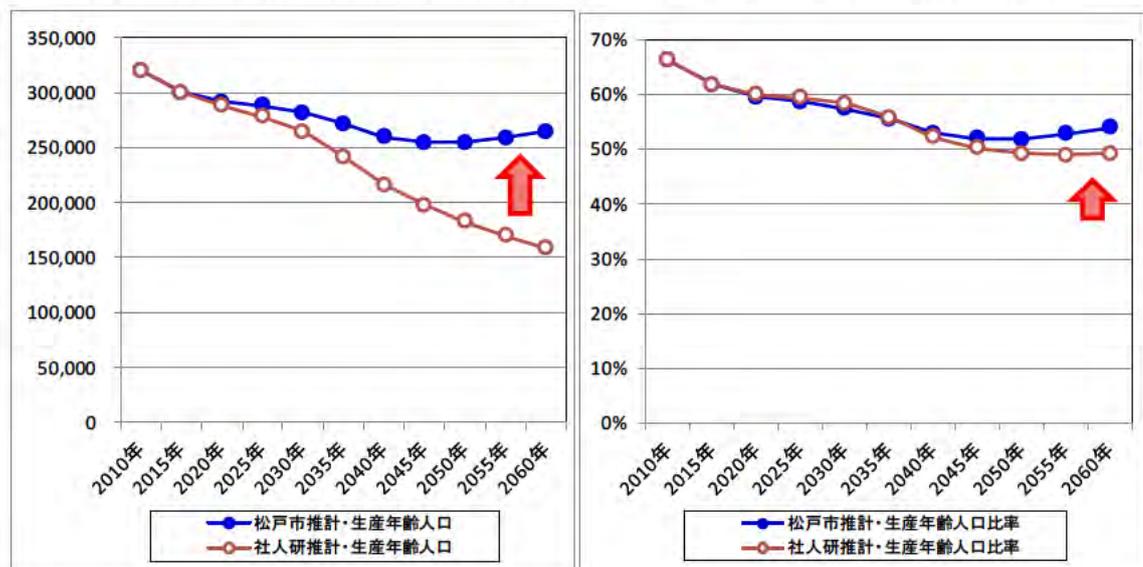
年齢3区別の動向を比較してみると、社人研推計では年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の増加を受けて高齢化率が上昇しているのに対し、松戸市推計では出生率の上昇やファミリー層の転入等を織り込んだことにより、異なる様相を示している。すなわち、年少人口は増加し、生産年齢人口は減少するものの、その幅は小さい。

その結果として、年少人口比率は上昇し、老年人口そのものは増加するものの、人口全体の増加率の方が高いため老年人口比率は低下することとなる。

◇「松戸市推計」と「社人研推計」での年少人口数・年少人口比率の推移



◇「松戸市推計」と「社人研推計」での生産年齢人口数・生産年齢人口比率の推移



◇「松戸市推計」と「社人研推計」での老年人口数と老年人口比率の推移

